城郭修補願絵図データベース

白　峰　　旬

緒　言

本稿の一覧表は、江戸時代、元和元年（1615）以降の武家諸法度下において城郭修補申請の際に大名から幕府へ提出した城郭修補願絵図について、その諸元比較を一覧表としてまとめたものである。筆者は、これまで同様の試みとして、拙稿「城郭修補絵図諸元比較一覧表」(1)、拙稿「城郭修補絵図諸元比較一覧表（改訂版）」(2) を発表し、城郭修補願絵図として前者では109事例を提示し、後者では305事例（前者の109事例を含む）を提示した。その後、城郭修補願絵図の事例をさらに追加して、本稿の一覧表では402事例を収載した。この402事例は、現段階で管見により把握している事例数であり、今後の調査によりさらに増加することが予想される。こうした400以上の申請事例がすべて幕府により許可されたと仮定すると、それとほぼ同数の老中奉書（城郭修補許可）が発給されたことになり、老中奉書が個々に伝存していないケースでも許可事例として推測する材料になり得るであろう。

城郭修補願絵図について、通時的に諸元比較をおこなう検討作業は、拙稿以外、これまでの研究史においておこなわれておらず、こうした検討が、当該期の幕藩関係を解明する手掛かりにもなるという点のほかに、城郭修補許可制の基礎データとして有効な価値を持つという点から、本稿ではこの一覧表を「城郭修補願絵図データベース」（以下、城郭絵図ＤＢと略称する）として改題することとした。この城郭絵図ＤＢに収録した絵図は、大名が城郭修補申請の際に提出した絵図（控図も含む）に限定し、その意味ではいわゆる幕用図(3) に限定したので、藩用図(4) としての用途を持った城郭修補関係の絵図は収録していない。また、幕用図であっても、修補申請の段階で提出された絵図ではなく、単に地震などの被害届として提出された絵図(5) も収録していない。

城郭絵図ＤＢを見るとわかるように、城郭修補願絵図の年次分布は、江戸時代初期の寛永期～幕末の慶応期まで幅広く分布しており、管見の限り現段階で城郭修補願絵図が確認できないのは、元和期と正保期のみであるが、この点は史料の残存状況に関係すると思われ、実際にはこの時期にも城郭修補願絵図が存在したと考えられる(6)。このことは、武家諸法度下、各大名からの城郭修補申請の際の絵図提出が厳格に遵守されていたことを示しており、江戸時代を通して幕府による大名統制の貫徹度を測るうえで、一つの指標になりうるであろう。

城郭修補願絵図を個々に閲覧して気付く点は、同じ城郭の場合、同一パターンの絵図をベースにして、各時期の修補願絵図を作成しているケースが多いことである。この点については、すでに寛文期において、申請に際してそのように絵図を使用することを老中稲葉正則が大名に対して指導していたことが、あきらかになっているので(7)、こうした措置が各大名において励行された結果と見なされる。ただし、同じ城郭において同一パターンの絵図を使用するという原則は、城主（大名家）が転封によって交代しなかった場合に多く見られるのであって(8)、同じ城郭であっても、城主（大

名家）が転封によって交代した場合は、それぞれ別パターンの絵図を使用しているケースもある[9]。

城郭絵図ＤＢの諸元比較⑦において、全体図であるのか、或いは、部分図であるのか、という点を比較したが、詳細に見ると全体図は、内郭（本丸、二の丸、三の丸など）のみを描く絵図と、外郭（城下町域や惣構など）まで含めて描く絵図の２種類に大別できる。後者については、外郭部分に幕府への修補申請箇所が存在するケースである[10]。城郭絵図ＤＢの諸元比較⑦では、この両パターンの絵図について、共に全体図として一括したものの、今後、個々の修補願絵図の描写内容を検討する際には、この点についての峻別もおこなう必要があろう。

城郭絵図ＤＢにおいて今後検討を加えるべき点としては、それぞれの修補願絵図において、「大手」や「搦手」の表記がいつの時代から一般的に見られるようになったのか、という点がある。この点については、享保６年（1721）に佐伯城の修補願絵図（下絵図）を老中戸田忠真が内覧した際に、「大手」と「搦手」を記載するように指図したケースがあるので、この時期には修補願絵図の一般原則として、「大手」と「搦手」の位置を絵図に記載させようとする幕府側の意向があったことを示している[11]。よって、享保期以前の修補願絵図における「大手」と「搦手」の表記の有無に関する検討と、享保期以降の修補願絵図において「大手」と「搦手」の表記が通例的に見られるようになったのか否か、という点を検討していく必要がある。

修補願絵図に対する史料批判という点では、①描写された建築物の精度に関する問題、②絵図の景観年代と描写年代が合致するのか否かという問題、③絵図描写におけるデフォルメに関する問題などがある。上記①については、天守の描写に誤りが認められるケースがあり[12]、上記②については、その絵図が作成された年次において存在していない建物が描かれているケースがある[13]。また、上記③については１枚の絵図に広い城域を無理に収めて描いたため、実際の距離感よりもかなり圧縮して描かれたケースがあるので[14]、修補願絵図の描写内容を検討する際には、こうした点に注意する必要があろう。

武家諸法度下における城郭修補願絵図の史的意義についてまとめると、城郭修補願絵図というのは修補申請の際に大名から幕府に提出して、将軍が上覧する性格のものであり、その点を勘案すると、将軍の全国支配権に関係する重要な論点を含んでいるというように総括できる[15]。その意味では、城郭修補願絵図を分析することによって、江戸時代を通しての幕藩関係の推移を具体的に知ることができると考えられる。

なお、今後の検討点としては、①城郭修補願絵図に関する個々の描写内容の分析、②城郭修補願絵図における申請文言の記載様式の変遷・推移に関する分析[16]、③正保城絵図[17]と城郭修補願絵図の描写内容を比較して、正保城絵図の描法の影響についてより多くの事例をもとに検証すること[18]、④城郭修補願絵図と申請を許可した老中奉書との個々の対応関係についての検討、⑤城郭絵図ＤＢにおける事例をさらに追加して、幕府による城郭統制の実態と推移を検討すること、などの点があるが、こうした視点からの検討については他日を期したい。

【註】

1　『愛城研報告』４号（愛知中世城郭研究会、1999年）。

2　『城館研究論集』発刊準備号（仮称城館学会、2001年）。城郭修補願絵図についての若干の考察は、前掲『愛城研報告』４号の拙稿と『城館研究論集』発刊準備号の拙稿に記載してあるので参照されたい。

3　幕用図、及び、藩用図の概念については、矢守一彦『都市図の歴史（日本編）』（講談社、1974年、84頁）を参照されたい。

4　前掲註３に同じ。

5　例えば、嘉永４年（1851）の掛川城絵図（「御天守台石垣芝土手崩所絵図」）は、天守台北面の石垣と芝土手が崩落した被害状況を幕府に対して示した絵図控えであって（『歴史群像シリーズ・よみがえる日本の城11　駿府城』、学習研究社、2005年、25頁）、幕府への申請の際に提出された絵図ではなく、被害状況の報告（届け出）の絵図であるので、城郭絵図ＤＢには収録していない。

6　管見によれば、老中（年寄）奉書に絵図提出についての記載が出てくる初見は元和７年（1621）の金沢城の事例であるので（拙著『日本近世城郭史の研究』、校倉書房、1998年、223頁）、この絵図そのものは伝存しないものの、すでに元和期において城郭修補願絵図が幕府に提出された事例が存在したことがわかる。なお、この奉書（「元和７年２月７日付前田利常宛幕府年寄衆連署奉書」）の具体的文面については、木越隆三氏による史料翻刻である「資料紹介　古より公儀江被上候御城絵図・御国絵図改申品々之帳」（『研究紀要金沢城研究』創刊号、石川県教育委員会事務局文化財課・金沢城研究調査室、2003年）を参照されたい。

7　拙稿「武家諸法度下における大名居城の修築と修補申請基準・増改築許可基準について」（『城館史料学』３号、城館史料学会、2005年、に収載予定）。

8　例えば、仙台城修補願絵図（享保６年11月？日付、同10年10月21日付、同15年11月18日付）では同じパターンの絵図使用が認められる。各絵図の典拠については、城郭絵図ＤＢのそれぞれの注を参照されたい（典拠については以下の各絵図も同様）。

9　例えば、姫路城のケースでは、榊原家城主時代の修補願絵図（享保19年８月付）と酒井家城主時代の修補願絵図（天明８年12月13日付）とは絵図パターンが異なっている。また、両絵図を比較すると、いわゆる上山里曲輪のところを前者では二丸、後者では三丸と記載しており、同一の曲輪であっても曲輪の名称が異なっている。ただし、他の酒井家城主時代の修補願絵図（嘉永３年11月29日付）は榊原家城主時代の修補願絵図（享保19年８月付）と同じパターンの絵図であるので、城主（大名家）が異なっても同じパターンの絵図を使用した場合もあったことがわかる。こうした姫路城のケースと同様に延岡城のケースでも、牧野家城主時代の修補願絵図（正徳３年６月付、延享３年８月21日付、享保元年11月付）と内藤家城主時代の修補願絵図（嘉永５年10月付、安政２年11月付）とは絵図パターンが異なっている。そして、前

者と後者では大手として記載された位置も異なっている。

10 例えば、中津城の修補願絵図（弘化２年６月付）は惣構まで描かれた絵図であり、惣構の堀浚も申請箇所の中に含まれている（図１参照）。また、鳥取城修補願絵図（延宝８年付）について、申請箇所とは「直接的に不要な城下町部分も含めて広範囲に描かれている」（『歴史群像シリーズ・よみがえる日本の城６　萩城』、学習研究社、2004年、45頁）という指摘がある。しかし、同絵図中の「破損之覚」には城下における惣堀の堀浚について、その申請箇所には付札を付したことが記されているので、後世になって、その付札が剥がれたものと推測される。よって、この場合も城下の惣堀の堀浚についての申請が関係していたため、城下町部分も描かれたと考えられる。この点を考慮すると、上記の引用箇所の指摘は妥当とは言えないことがわかる。

11 拙稿「豊後国佐伯城の大修築（宝永６年～享保13年）について」（『史学論叢』34号、別府大学史学研究会、2004年）。

12 例えば、米子城修補願絵図（寛文７年６月９日付）については、「城内の雰囲気をよく伝えているが建物の詳細は不鮮明で、とくに大小天守は象徴的に描かれており誤りが多い」と指摘されている（前掲『歴史群像シリーズ・よみがえる日本の城６　萩城』、49頁）。

13 例えば、安政２年（1855）の小倉城修補願絵図には天保８年（1837）に焼失したはずの天守が依然として描かれているが、その理由としては、この安政２年の小倉城修補願絵図が天守焼失以前の文化13年の小倉城修補願絵図の図様を基本的に踏襲している（『小倉城跡』〈北九州市埋蔵文化財調査報告書197集〉、財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室、1997年、16頁）ことが考えられる。このため、安政２年の時点では実際には存在していなかった小倉城天守が絵図上で消去されることなく描かれたままになっていたのであろう。よって、このケースは城郭修補願絵図に描かれたフィクションとしての建築物という意味において興味深い事例である。

14 例えば、年次未詳の佐伯城修補願絵図（『佐伯市史』、佐伯市、1974年、204頁）は、山上の本丸などの曲輪部分と、山麓の三の丸との距離が実際よりもかなり圧縮されて描かれているが、この場合、山城部分と山麓の三の丸の部分とを１枚の絵図の中に収めて描こうとしたことから、こうしたデフォルメされた描写になったのであろう。また、弘化４年５月27日付の関宿城修補願絵図（図録『描かれた世喜宿城』、千葉県立関宿城博物館編集、財団法人千葉県社会教育施設管理財団発行、1997年、16頁）は、城下（士屋敷）部分の面積が本丸などの曲輪部分に比較して極端に圧縮されて描かれており、この場合、城下（士屋敷）の南にある大手門までを１枚の絵図の中に収めて描こうとしたことから、こうしたデフォルメされた描写になったのであろう。なお、前掲・図録『描かれた世喜宿城』の存在及びその内容については、高田徹氏より御教示をいただいた。そのほか、前掲の安政２年の小倉城修補願絵図は、南北に長く描かれておりデフォルメされている点が指摘されている（前掲『小倉城跡』〈北九州市埋蔵文化財調

査報告書197集〉、16頁)。

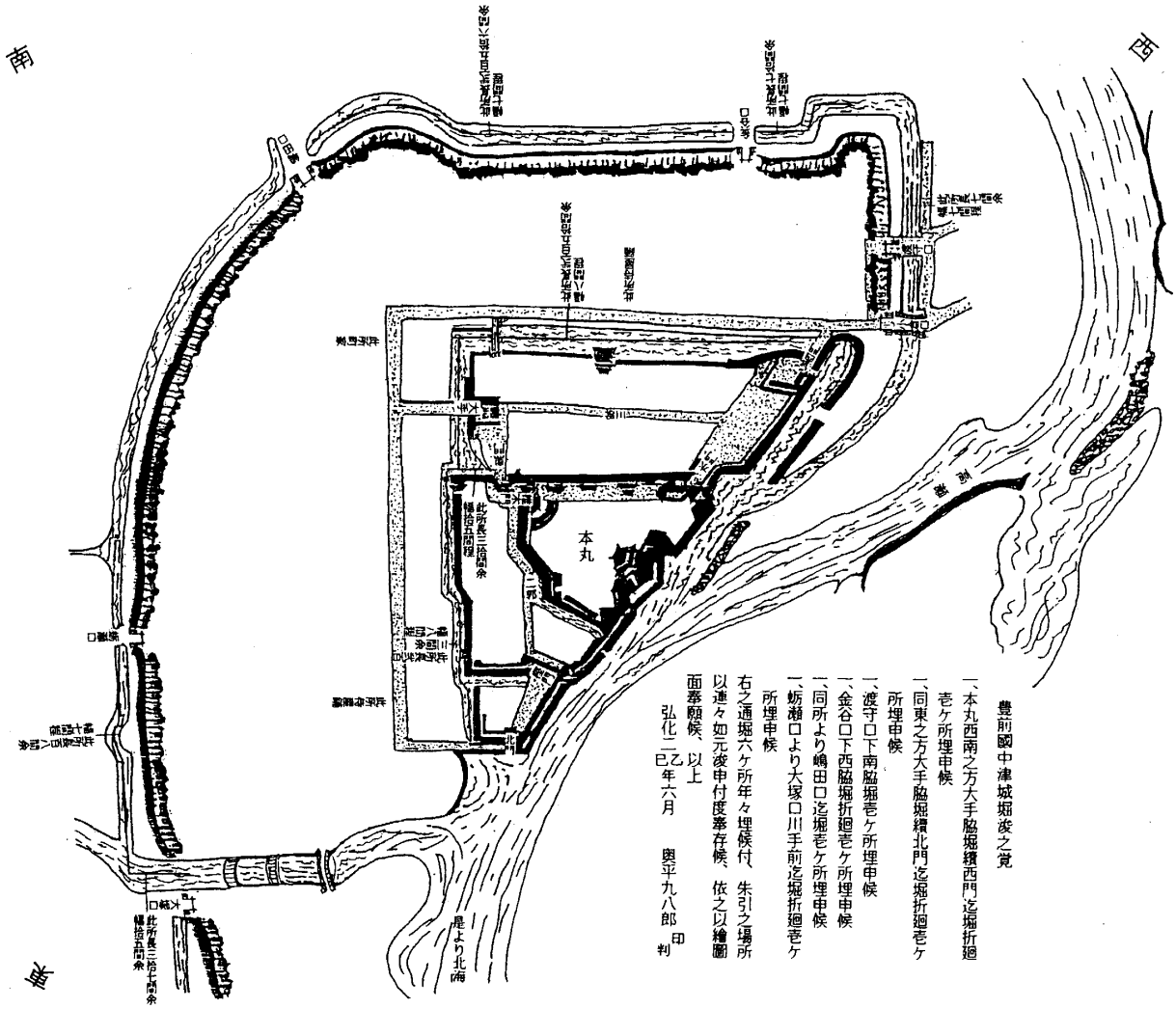
15 前掲・拙稿「武家諸法度下における大名居城の修築と修補申請基準・増改築許可基準について」。

16 この点に関しては、すでに木越隆三氏が、種々の修補願絵図を検討した結果、絵図中における願書の文言が、元禄期～享保期を境として「～奉存候」（薄礼の文言）から「～奉願候」（厚礼の文言）へ変化した、という点を指摘している。ただし、加賀藩（金沢城修補願絵図）の場合は、こうした厚礼の文言への変化が認められないという点も指摘している（木越隆三「金沢城全域絵図の分類と編年－金沢城絵図調査報告Ⅰ－」、『研究紀要金沢城研究』２号、石川県教育委員会事務局文化財課・金沢城研究調査室、2004年)。この木越氏による指摘は、江戸時代を通しての幕藩関係の推移を考えるうえで大変重要な指摘であり、こうした視点も含めて絵図中での他の記載文言についても検討していく必要があろう。

17 正保城絵図については現在、国立公文書館内閣文庫に現存する63枚の絵図のほかに、各地には正保城絵図の控え（或いは写し）と考えられる絵図が存在する。そのような正保城絵図の事例については、表１を参照されたい。

18 例えば、松江城修補願絵図（延宝２年９月朔日付）は、正保城絵図（松江城）とほとんど同じ形状であり、天守についても同形である、という指摘がされている（『石垣調査報告書－史跡松江城－』、松江市教育委員会、1996年、63頁)。このような正城絵図と相似形を示す城郭修補願絵図の類例を精査検討して、いつの時代までこうした事例が確認できるのか考察する必要があろう。

図１



上図は「豊前国中津城絵図」（中津市金谷南ノ丁、稲浦龍一氏所蔵）を活字翻刻したものである。出典は『中津藩史料叢書　中津藩　歴史と風土』12輯（中津藩政史料刊行会企画、中津市立小幡記念図書館発行、1992年、口絵）による。

表1
正保城絵図（控絵図等も含む）

		長辺（cm）	短辺（cm）
★	高取（注1）	537	425
★	福岡（注2）	511.5	315
	水戸	419	200.5
★	熊本（注3）	364.5	298
	徳島（注4）	364.5	226.5
	白河	364	244
★	名古屋（注5）	346	325
	久保田	340	258
	備中松山	338	239.5
	膳所	333	214
	古河	330	264
	岸和田	330	230
	掛川	327	302
	松江（注6）	321	276
	小田原	321	215
	大和郡山	320	320
★	仙台（注7）	318.5	266.5
	高知	317.5	258.0
	丹波亀山	307.5	264.5
	関宿	305	214
	山形	304.5	268
	津山	302.5	230.5
★	会津若松（注8）	302	255
	米沢	297	235.5
	福知山	296	257.5
	桑名	283.5	253
	村上	283	277
	竹田	283	182
	笠間	280.5	272
	八代	276	208
	府内	276	155.5
	新宮	275.5	215
★	萩（注9）	273	266
	長岡	269	207
	大垣	268	211.5
	大洲	267.5	217
	篠山	267	243
	盛岡	264	230
★	今治（注10）	263	252
★	中村（注11）	260	245

		長辺（cm）	短辺（cm）
	高遠	258	191
	丸亀	255.5	217.5
	岡山	255	188
	臼杵	251	230
	松坂	250	230
	新発田	247	181
★	田中（注12）	247	197
	新庄	245.5	188.5
	岩村	245.5	179
	唐津	244.5	184
	広島	244	193.5
	烏山	241	221
	小倉	240	184.5
	亀山	240	177
	備後福山	239	208
	刈谷	237	208
	二本松	236	177
	西尾	235	190
	上山	234	234
	沼田	233.5	175.5
★	土浦（注13）	230	220
	津和野	227.5	209.5
	弘前（注14）	218	208
	上田	216	176
	棚倉	215	152
	飯山	212	154
★	富山（注15）	210	184
	田原	208	174
	東根	201	167.5
★	森（注16）	192	174
	丸岡	190	181
	日出	188	164.5
	本荘	188	161
	明石	182	181.5
★	龍野（注17）	180.5	144.4
★	苗木（注18）	176.2	150.4
	三原	162.5	133
	白石	159	154
★	鳥取（注19）	157	156
★	越後高田（注20）	—	—

【凡例】▒…支城を示す。★…内閣文庫所蔵以外の正保城絵図（控絵図等も含む）を示す。

※表１は、正保城絵図の長辺の大きい順にソートをかけたものである。ただし、越後高田については、管見では絵図の大きさは把握していないので、上表の欄中では「－」とした。

※内閣文庫所蔵正保城絵図（63枚）の大きさについては、小和田哲男「近世初期城下町絵図の一考察－いわゆる「正保年間」絵図について－」（『地方史研究』88号、地方史研究協議会、1967年。のち、小和田哲男『戦国城下町の研究』〈小和田哲男著作集第７巻〉、清文堂出版、2002年、に収録）による。ただし、高知城絵図及び久保田城絵図の大きさについては、油浅耕三「「土佐国（高知）城絵図」について（その１）」（『日本建築学会東海支部研究報告』、1979年、253頁）、同「『出羽国秋田郡久保田城書図』の都市的考察」（『第17回日本都市計画学会学術研究発表会論文集』、日本都市計画学会、1982年、386頁）により修正した。

※内閣文庫所蔵以外の正保城絵図（控絵図等も含む）の大きさ等の典拠については、それぞれの注に記した。

【注】

1　天理大学附属天理図書館所蔵「和州高取城山之絵図」（原田伴彦・西川幸治・矢守一彦編『近畿の市街古図』、鹿島出版会、1978年、44頁）。この絵図の存在については、高田徹氏より御教示をいただいた。

2　福岡市博物館所蔵「福博惣絵図」（『太陽コレクション　城下町古地図散歩７』、平凡社、1998年、18～19頁）。

3　熊本県立図書館所蔵「平山城肥後国隈本城廻絵図」（油浅耕三「「平山城肥後国隈本城廻絵図」について」、『日本建築学会大会学術講演梗概集（中国）』、1977年、1921頁。『熊本城』、学習研究社、1994年、１頁、110～111頁）。

4　このほかに徳島城の正保城絵図の控絵図（個人蔵「阿波国徳島城之図」）が存在し、その大きさは361×240cmである（図録『徳島城下絵図』、徳島市立徳島城博物館、2000年、９頁、45～46頁）。

5　徳川美術館所蔵「名古屋城絵図」（『太陽コレクション　城下町古地図散歩２』、平凡社、1995年、７頁）。「正保四年（1647）名古屋城絵図」（徳川美術館所蔵、ナカシャクリエイテブ株式会社企画・製作）。徳川美術館所蔵「正保四年名古屋城絵図（部分）」（『新修名古屋市史』３巻〔名古屋市、1999年〕の付図）。このほか、1993年５月19日付毎日新聞、同日付中日新聞の関係記事も参考にした。

6　このほかに松江城の正保城絵図の控絵図（乙部弌次氏所蔵「松江城正保年間絵図」）が存在し、その大きさは300×300cmである（『石垣調査報告書－史跡松江城－』、松江市教育委員会、1996年、58頁、61頁）。

7　斎藤報恩会所蔵「奥州仙台城絵図」（油浅耕三「「奥州仙台城絵図」について」、『日本建築学会東海支部研究報告』、1978年、217頁。『仙台城』、学習研究社、1996年、11頁、65頁）。

8　福島県立博物館所蔵「陸奥之内会津城絵図」（『会津若松城』、学習研究社、1997年、１頁、６

～７頁。『太陽コレクション　城下町古地図散歩８』、平凡社、1998年、24頁。図録『戦国の城』、福島県立博物館、1998年、14頁、33～34頁)。

9　山口県文書館所蔵「慶安五年萩城下町絵図」(『萩市史』１巻、萩市、1983年、口絵。『萩城』、学習研究社、1997年、１頁、54～55頁。『太陽コレクション　城下町古地図散歩５』、平凡社、1997年、39頁)。

10　今治市立図書館所蔵「今治城下絵図」(『太陽コレクション　城下町古地図散歩６』、平凡社、1997年、112頁)。このほか、今治史談会所蔵「伊予今張（今治）城図」(『歴史群像シリーズ・よみがえる日本の城10　大洲城』、学習研究社、2005年、20～21頁）も今治城の正保城絵図（控図）である。

11　相馬市教育文化センター保管（相馬和胤氏所蔵）「中村城下絵図」(前掲『太陽コレクション　城下町古地図散歩８』、63頁)。

12　藤枝市郷土博物館所蔵「駿河国田中城絵図」(図録『東海道の城下町展Ⅰ』、豊橋市二川宿本陣資料館、2004年、36頁)。この図録の存在については、石川弘治氏より御教示をいただいた。『歴史群像シリーズ・よみがえる日本の城11　駿府城』(学習研究社、2005年、19頁)。「駿河国田中城絵図」(藤枝市郷土博物館発行、1996年〔第２版〕)。表１における絵図の大きさは、前掲「駿河国田中城絵図」(藤枝市郷土博物館発行）の解説によった。

13　土浦市立博物館色川文庫所蔵「常州土浦城之図」(図録『発掘された土浦城』、上高津貝塚ふるさと歴史の広場、2004年、口絵。『復元大系日本の城』２巻、ぎょうせい、1993年、126頁)。この絵図の所蔵先、及び、大きさについては、「土浦古地図の散歩道－語りかける絵図－」〈土浦市立博物館第26回企画展リーフレット〉(土浦市立博物館編集・発行、2001年）によった。

14　このほかに弘前城の正保城絵図の下絵図とも考えられる絵図（弘前市立博物館所蔵「津軽弘前城之絵図」）が存在する（長谷川成一、他４名著『青森県の歴史』、山川出版社、2000年、口絵写真及びその解説。この絵図の所蔵先は、長谷川成一『弘前藩』、吉川弘文館、2004年、43頁、によった)。

15　金沢市立玉川図書館所蔵「越中国富山古城絵図」(『太陽コレクション　城下町古地図散歩１』、平凡社、1995年、62～63頁)。この絵図の存在及びその内容については、木越隆三氏（石川県教育委員会事務局文化財課・金沢城研究調査室）より御教示をいただいた。

16　河上隆幸氏所蔵「豊後国玖珠郡森久留島丹波守屋敷絵図」(『角牟礼城跡』〈玖珠町文化財調査報告書第12集〉、大分県玖珠町教育委員会、2000年、84頁・図版２)。この絵図の所蔵者については、『玖珠町史』上巻（玖珠町教育委員会、2001年、388頁）によった。甲斐素純「角牟礼城の石垣～築城者は、はたして誰か～」(『玖珠郡史談』30号、玖珠郡史談会、1993年）において、正保城絵図（控図）としての「豊後国玖珠郡森久留島丹波守屋敷絵図」が紹介されている。この論文において、甲斐氏は、この絵図には種々の写しが存在することを指摘しており、

表１における絵図の大きさは、その中の森町小学校旧蔵（現河上隆幸氏所蔵）の絵図の寸法である。これ以外に別の写しの絵図として、竹野孝一郎氏所蔵絵図は、その大きさが135cm×99cmである。なお、この絵図の内容については、甲斐素純「正保の城絵図」（『玖珠郡史談』31号、玖珠郡史談会、1993年）を参照されたい。

17　龍野市立歴史文化資料館所蔵「龍野城下町絵図」（『描かれた龍野－絵図の世界－』、龍野市立歴史文化資料館、1991年、14頁、111～112頁）。

18　中津川市苗木遠山史料館所蔵「苗木城絵図」（『苗木城絵図輯録』、中津川市教育委員会・中津川市苗木遠山史料館）。

19　東京大学総合図書館所蔵「因幡国鳥取城廻絵図」（正保期鳥取城絵図写）（『大名池田家のひろがり』、鳥取市歴史博物館、2001年、52頁、92頁）。

20　「高田城下図」（『復元大系日本の城』３巻、ぎょうせい、1992年、154頁）。管見では、この絵図の所蔵先は不明である。

【付記】

伊勢亀山城の正保城絵図（内閣文庫所蔵）と正保城絵図の控図（亀山市歴史博物館所蔵）との記載内容の具体的相違箇所については、小林秀樹「文献資料からみた亀山城再考－近世亀山城研究の課題－」（『亀山市歴史博物館研究紀要』３号、亀山市歴史博物館、2000年）の41頁を参照されたい。また、『亀山城跡～東三之丸外堀の市道拡幅に伴う発掘調査～』〈亀山市文化財調査報告16〉（亀山市教育委員会、1996年）の２～４頁及び図版９についても参照されたい。

城郭修補願絵図データベース

	年　月　日	城名・陣屋名等		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	長辺（cm）×短辺（cm）
	寛永2.8.20	小倉城	（注1）	×	×	○	×	○	×	○	×	×	南	☆	76.5×63.7
	寛永11.3.17	熊本城	（注2）	◎	○	○	○	○	×	○	×	×	西	?	
	寛永19.7.16	徳島城	（注3）	×	○	○	△	○	×	○	○	×	東	×	133.7×89.7
	寛永21.4.23	徳島城	（注4）	×	○	○	△	○	×	○	○	×	東	×	164.3×108.3
	慶安1.12.7	中村城	（注5）	☆	○	○	○	△	×	○	△	○	北	☆	94×79
	慶安3.5.3	綾部陣屋	（注6）	×	×	○	△	×	△	○	×	○	東	○	
	承応2	岸和田城	（注7）	×	×	○	○	○	○	○	○	×	西北	×	
	承応～延宝ヵ	徳島城	（注8）	△	○	○	○	○	×	○	○	×	南	×	93×69
●	明暦2.閏4.23	岡山城	（注9）												※控
●	明暦2	岡山城	（注10）												※控
	明暦2頃	福岡城	（注11）	×	×	○	×	△	○	○	×	?	?	×	
●	万治2.7	岡山城	（注12）												※控
●	万治3.7.27	小田原城	（注13）												87×78　※写
●	万治3.11.21	高知城	（注14）												207.0×178.5
●	寛文2.5.21	福知山城	（注15）												55.3×41.8
	寛文2.6.26	金沢城	（注16）	☆	○	○	○	×	×	○	○	×	東南	×	97×77
	寛文2.6.26	小松城	（注17）	☆	?	○	○	×	×	○	○	○	西	?	95×72.5　※控
	寛文2.6.26	小松城	（注18）	☆	○	○	○	×	×	○	○	○	西	×	96×76　※写
	寛文2.7.28	膳所城	（注19）	?	?	○	○	○	○	○	○	?	?	?	
	寛文2.10.6	飫肥城	（注20）	◎	○	○	×	○	×	○	×	×	西	☆	
	寛文2ヵ	膳所城	（注21）	?	?	○	○	○	○	○	○	?	?	?	
	寛文3.4.22	高山城	（注22）	×	×	○	○	○	×	○	△	×	南	☆	81×50
	（寛文4）4.24	中村城	（注23）	?	×	○	○	△	×	○	△	?	?	?	92×83
	寛文4.7.27	新庄城	（注24）	×	○	○	○	○	×	○	○	○	西北	×	70.4×58
	寛文5.11.26	福知山城	（注25）	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	東	×	
	寛文6.6.11	田原城	（注26）	○	×	○	○	○	×	×	×	×	西	☆	47.2×37.6
	寛文7.5.11	金沢城	（注27）	☆	×	○	○	×	×	○	○	×	西北	☆	96×76
	寛文7.6.9	米子城	（注28）	☆	×	○	○	○	○	○	○	○	南	☆	120×96　※控あるいは写
●	寛文9	福井城	（注29）												280×235　※控ヵ
●	寛文11	平城	（注30）												121×82
	寛文11.6.11	金沢城	（注31）	×	○	○	○	×	×	○	○	×	西北	×	96×95
	寛文12.6.3	島原城	（注32）	×	○	○	○	○	×	○	○	×	東	×	181.5×104.0
	寛文12.11.23	小田原城	（注33）	○	○	○	○	○	×	○	△	×	南	×	105×102
●	寛文12	岡山城	（注34）												
●	寛文12	岡山城	（注35）												
	寛文13.5	金川陣屋	（注36）	○	○	○	×	×	×	△	△	?	西	○	
●	寛文13.5	岡山城	（注37）												※控
	延宝2.9.朔日	松江城	（注38）	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	西	☆	124×85
	延宝3ヵ	岸和田城	（注39）	?	?	○	×	○	○	○	○	?	?	?	
	延宝4.4.18	臼杵城	（注40）	×	×	○	○	○	×	○	○	○	東	☆	
	延宝4	高山城	（注41）	×	○	○	○	○	×	○	○	×	西	?	
●	延宝4	岡山城	（注42）												
●	延宝4	平城	（注43）												143×124　※下絵図
●	延宝4	平城	（注44）												146×128　※下絵図
●	延宝4	平城	（注45）												141×138　※下絵図
	延宝5.2.22	萩城	（注46）	◎	×	○	×	○	△	△	○	○	北	?	
	延宝5.8.5	富山城	（注47）	○	○	○	○	×	○	○	×	○	北	☆	

	延宝7.7.25	越前大野城	(注48)	○	△	○	○	○	○	○	△	○	西	☆	103×103
●	延宝7	岡山城	(注49)												
	延宝8.閏8.16	諏訪高島城	(注50)	×	×	○	○	○	×	○	○	○	西	☆	
	延宝8	鳥取城	(注51)	×	△	○	○	○	○	○	×	○	東北	×	165×154　※控図
●	延宝8	岡山城	(注52)												
●	延宝8	平城	(注53)												174×136　※下絵図
	天和2.6.23	田原城	(注54)	☆	×	○	○	○	×	△	○	×	東南	☆	86.8×50.5
	天和3.2.6	鳥取城	(注55)	×	×	○	○	○	○	○	○	○	東北	○	130×90　※控図
	天和3.6.26	島原城	(注56)	◎	×	○	○	△	×	○	○	○	西	☆	67.8×41.6
●	天和3	小松城	(注57)												96×76　※写
●	天和3	岡山城	(注58)												
●	天和3	岡山城	(注59)												
●	貞享1.5.6	島原城	(注60)												76.8×47.8
●	貞享1	岡山城	(注61)												
	貞享2.8.26	飫肥城	(注62)	☆	○	○	○	○	×	○	○	○	北	☆	
	貞享2	今治城	(注63)	×	×	○	○	○	×	○	○	?	?	?	
●	貞享2	岡山城	(注64)												
●	貞享2	平城	(注65)												175.0×141.5
●	貞享3	岡山城	(注66)												
	貞享4.7.3	川崎要害	(注67)	△	○	○	△	?	○	○	?	?	東	×	
	貞享4.8.13	前橋城	(注68)	×	×	○	○	○	○	○	○	○	西	×	
●	貞享4	岡山城	(注69)												
	貞享5.6.6	越前大野城	(注70)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	西北	☆	62×62
●	貞享5	岡山城	(注71)												
●	貞享5	岡山城	(注72)												
●	元禄2.7.10	島原城	(注73)												52.5×38.4
●	元禄2	岡山城	(注74)												
●	元禄2	岡山城	(注75)												
	元禄3.3.11	米子城	(注76)	☆	×	○	○	○	×	○	○	○	南	×	128×105　※控あるいは写
	元禄3.4.11	新庄城	(注77)	×	×	○	○	○	×	○	○	○	西	☆	75.8×45
●	元禄3.12	涌谷要害	(注78)												
●	元禄4	岡山城	(注79)												
	元禄5.2	舞鶴城（田辺城）	(注80)	×	○	○	○	○	×	○	○	×	南	☆	
	元禄5.7.23	球麻城（人吉城）	(注81)	×	○	○	○	○	×	○	○	?	北	×	2尺4寸4分×1尺7寸3分
	元禄5.8.6	田原城	(注82)	☆	×	○	○	○	×	○	○	×	東南	○	
●	元禄5	岡山城	(注83)												
	元禄7.9.15	川越城	(注84)	×	×	○	○	○	×	○	○	×	西	☆	
●	元禄7	岡山城	(注85)												
●	元禄8.5.11	島原城	(注86)												50.8×36.0
	元禄8.8	越前大野城	(注87)	○	○	○	○	○	×	△	○	○	西北	×	99×95
●	元禄8	岡山城	(注88)												
	元禄9.5.13	鹿児島城	(注89)	○	×	○	○	○	×	○	○	○	西北	☆	
	元禄9.11.12	金山要害	(注90)	?	?	?	?	○	?	○	?	?	?	?	
	元禄9.11.29	金山要害	(注91)	?	?	?	?	?	○	○	?	?	?	?	
●	元禄12.9.29	涌谷要害	(注92)												
●	元禄12.10.10	涌谷要害	(注93)												
●	元禄13.1.3	島原城	(注94)												111.6×68.4
●	元禄13.1.23	島原城	(注95)												92.6×52.3
	元禄13.3.25	諏訪高島城	(注96)	×	○	○	○	○	×	○	○	×	南	☆	
	元禄13.8.3	田原城	(注97)	☆	○	○	○	○	×	○	○	×	東南	☆	63.5×39.1(その1)、94.3×38.0(その2)

●	(元禄13)	島原城	(注98)											115.7×65.0
●	元禄14.2	岡山城	(注99)											※控
	元禄14.8.3	川越城	(注100)	×	×	○	○	○	×	○	○	×	西	☆	
	元禄14.12.26	徳島城	(注101)	◎	×	△	○	○	×	○	△	○	北	○	
●	元禄14	岡山城	(注102)												
●	元禄15.4	米子城	(注103)												90×88　※下図
	元禄15.6	上田城	(注104)	☆	○	?	○	○	×	○	○	?	?	☆	
●	元禄15.7.25	新庄城	(注105)	?	?	?	?	?	?	?	○	?	?	☆	52.2×37.7
●	元禄15.9	米子城	(注106)												60×47　※控あるいは写
	元禄15.10.13	川越城	(注107)	×	×	△	○	○	×	○	○	×	西	☆	
●	元禄15	岡山城	(注108)												
	元禄15	亘理要害	(注109)	?	×	○	○	?	?	○	?	×	南	?	
●	元禄16.2	岡山城	(注110)												※控
	元禄16.9.19	盛岡城	(注111)	○	○	○	○	○	×	○	○	×	西	?	
●	元禄16	福井城	(注112)												105×90　※控
	元禄16	大館城	(注113)	○	×	○	○	△	×	○	○	?	南	×	
	元禄16	久保田城	(注114)	×	×	○	○	○	×	○	○	×	西	×	
	宝永1.9.25	田原城	(注115)	☆	○	○	○	○	×	○	○	×	東南	☆	
●	宝永1	高知城	(注116)												
●	宝永3.10.9	岡山城	(注117)												
●	宝永3.10.21	島原城	(注118)												125.0×48.3
●	宝永3	岡山城	(注119)												
	宝永4.11.晦日	田原城	(注120)	◎	○	○	○	○	×	○	△	×	東南	×	
●	宝永4	萩城	(注121)												
	宝永5.9.6	姫路城	(注122)	☆	○	○	○	○	×	○	○	×	南	◎	155×94
	宝永5.9	館林城	(注123)	×	×	○	○	○	×	○	×	?	西南	☆	
●	宝永5.11	岡山城	(注124)												
●	宝永5	岡山城	(注125)												
	宝永5	人吉城	(注126)	×	×	○	○	○	○	○	○	?	?	×	
●	宝永7.8	涌谷要害	(注127)												
	宝永7.9	佐貫城	(注128)	◎	○	○	○	×	×	○	○	?	南	☆	109×87
	宝永8	越前大野城	(注129)	◎	○	○	○	○	×	△	○	○	西北	☆	88×71
	正徳2.3.晦日	萩城	(注130)	×	×	○	○	○	×	○	○	○	北	☆	
●	正徳2	涌谷要害	(注131)												
	正徳3.6	延岡城	(注132)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	南	☆	102×85.2
	正徳3.11.15	甲府城	(注133)	◎	○	○	○	×	×	○	○	○	北	☆	
	正徳3頃	古河城	(注134)	×	×	○	○	○	×	○	○	?	?	×	62×44
	正徳5.1	大垣城	(注135)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	北	☆	140×99
	正徳5.7.□5	田原城	(注136)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	東南	☆	95.8×36.0
	正徳5.11.25	柳川城	(注137)	◎	○	○	○	○	×	○	○	?	南	☆	
	享保1.9.18	尼崎城	(注138)	◎	×	○	○	○	×	○	×	×	南	○	97.2×87.7
	享保1.11	延岡城	(注139)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	南	☆	96.5×80.2
	享保2.4	松代城	(注140)	◎	○	△	○	○	×	○	×	×	南	☆	※控
	享保2.10.27	米子城	(注141)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	西南	×	71×71　※控あるいは写
	享保2.12.6	田原城	(注142)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	東南	☆	
●	享保2	宮床要害	(注143)												
	享保2～享保8頃	淀城	(注144)	◎	×	○	○	△	×	○	○	×	北	×	
	享保3.8.21	萩城	(注145)	◎	×	○	○	○	×	○	○	○	北	×	
	享保3.9.11	田原城	(注146)	◎	×	○	○	○	×	○	○	×	東南	☆	
	享保3.9.28	諏訪高島城	(注147)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	東北	☆	

	享保3.12.27	岩村城	(注148)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	東	☆	201×169
	享保3頃	苗木城	(注149)	×	×	○	○	○	○	○	○	?	?	×	176.2×150.4
●	享保3	岡山城	(注150)												※写
	享保4.1.26	笠間城	(注151)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	南	☆	2尺1寸(南北) ×2尺5分(東西)※絵図中の注記による
●	享保4.6.29	島原城	(注152)												96.8×40.5
	享保4.8	新発田城	(注153)	◎	○	○	○	○	○	○	×	×	東南	☆	※控図
●	享保5	涌谷要害	(注154)												
	享保6.3	鳥取城	(注155)	◎	×	△	○	○	×	○	△	○	東北	×	85×67　※下図ヵ
	享保6.5	鳥取城	(注156)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	東北	☆	144×78　※控
	享保6.5	鳥取城	(注157)	◎	○	△	○	○	×	○	△	○	東北	☆	135×76　※控
	享保6.8	安中城	(注158)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	西北	○	83×59
	享保6.11.?	仙台城	(注159)	○	○	○	○	○	○	○	?	○	西	☆	
●	享保6	岡山城	(注160)												※下絵図
●	享保7	岡山城	(注161)												※控絵図
●	享保8	萩城	(注162)												
	享保9.4.21	今治城	(注163)	×	×	○	×	○	×	○	○	×	東南	×	
	享保9.5.28	高清水要害	(注164)	△	×	○	△	○	○	○	○	×	北	☆	
	享保9	佐倉城	(注165)	◎	○	○	○	△	○	○	○	×	南	☆	※控絵図
	享保9	今治城	(注166)	×	×	○	×	○	×	○	○	?	?	?	
●	享保9	岡山城	(注167)												
	享保10.4.15	金山要害	(注168)	?	?	○	×	○	○	○	○	○	南	?	
	享保10.10.21	仙台城	(注169)	◎	×	○	○	○	○	○	○	○	西	×	
	享保10	高遠城	(注170)	?	?	?	○	△	×	○	○	?	?	?	
●	享保12	萩城	(注171)												
●	享保12	涌谷要害	(注172)												
	享保14.11.22	田原城	(注173)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	東南	☆	85.3×50.7
●	享保14	涌谷要害	(注174)												
	享保15.10.11	小田原城	(注175)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	西	☆	70×65
●	享保15.10	小田原城	(注176)												
	享保15.11.18	仙台城	(注177)	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	西	☆	128.8×122.6
●	享保15	岡山城	(注178)												
	享保16.3.13	篠山城	(注179)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	東	×	
	享保16.11.16	岩村城	(注180)	◎	×	○	○	○	×	○	○	×	北	☆	
	享保17.4.11	姫路城	(注181)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	西	☆	
	享保17.8.15	横手城	(注182)	◎	○	○	○	?	×	○	○	○	西	×	
●	享保17	岡山城	(注183)												
	享保17ヵ	上田城	(注184)	◎	○	○	?	○	×	?	○	×	東北	?	
	享保19.8	姫路城	(注185)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	西	☆	132×129
	享保19.8	篠山城	(注186)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	東	×	
	享保19.9.29	佐倉城	(注187)	◎	○	○	○	△	×	○	○	○	西	☆	
	享保19.12	小田原城	(注188)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	西	×	81×78
	享保20.10.22	三春城	(注189)	☆	○	○	○	○	×	○	○	×	西北	☆	
	元文1.5.11	丸亀城	(注190)	?	?	?	○	○	×	?	?	○	南	?	
	元文1.5.11	丸亀城	(注191)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	東南	☆	
●	元文1.8	岡山城	(注192)												
●	元文1	岡山城	(注193)												
	元文1.10.23	佐倉城	(注194)	◎	?	○	○	△	×	○	○	○	西	☆	
	元文3.7	松江城	(注195)	◎	×	△	○	○	×	○	○	○	西	?	87.5×76.0
●	元文3.9	岡山城	(注196)												
	元文4.7.25	田原城	(注197)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	東南	☆	76.2×37.3

	元文4.7	仙台城	(注198)	◎	○	○	?	○	?	?	○	?	西	×	
	元文4.11	萩城	(注199)	◎	×	×	○	×	×	○	○	○	北	×	
	元文5.7	萩城	(注200)	◎	×	×	○	×	×	○	○	○	北	×	
	元文5.閏7	萩城	(注201)	◎	×	○	○	×	×	○	○	○	北	☆	
●	元文5.11	延岡城	(注202)												107.5×88.5
●	元文～寛保ヵ	小田原城	(注203)												76.5×74.3
●	寛保1.4	岡山城	(注204)												
	寛保2.11	松代城	(注205)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	西	☆	※控
	寛保3.5	久留里城	(注206)	◎	×	○	○	○	×	○	×	○	東南	☆	117×104
	寛保3.12	豊後府内城	(注207)	◎	○	○	○	○	×	○	○	?	北	☆	126×112
	延享2	赤穂城	(注208)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	南	☆	106.7×94.0
	延享3.4	萩城	(注209)	◎	○	○	○	△	×	○	○	○	北	☆	
	延享3.8.21	延岡城	(注210)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	北	○	118.3×85.5
	寛延3.8	延岡城	(注211)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	北	☆	
	寛延3	横手城	(注212)	◎	○	○	○	?	×	○	○	○	西	?	
●	宝暦4	松代城	(注213)												※控
	宝暦4	人吉城	(注214)	×	×	○	○	○	×	○	○	?	?	×	
	宝暦5.7.11	人吉城	(注215)	?	?	○	○	○	×	○	○	?	?	?	
	宝暦6.12	姫路城	(注216)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	西	☆	104×88
●	宝暦7.8.26	宇都宮城	(注217)												110.6×62.1
	宝暦8.10	人吉城	(注218)	?	?	?	○	○	×	○	○	?	?	?	
●	宝暦8	岡山城	(注219)												
	(宝暦10)	金沢城	(注220)	×	×	○	○	○	×	○	○	?	?	×	135×131
	宝暦10.7	小倉城	(注221)	◎	○	○	○	×	×	○	○	×	南	×	
	宝暦10.10	人吉城	(注222)	?	?	○	○	○	×	○	○	?	?	?	
	宝暦11.5.27	小浜城	(注223)	◎	×	○	○	○	×	○	○	×	南	☆	
	宝暦12.5	川越城	(注224)	◎	○	○	○	△	×	○	△	×	南	☆	74.5×55.8
	宝暦12.9	小倉城	(注225)	◎	○	○	○	×	×	○	○	×	南	☆	
●	宝暦12.12	宇都宮城	(注226)												46.4×34.5
	宝暦12	鳥取城	(注227)	◎	×	○	○	○	×	○	△	○	東北	☆	90×90　※下図ヵ
	宝暦12	鳥取城	(注228)	◎	×	○	○	○	×	○	○	○	東北	☆	91×90　※控図ヵ
	宝暦14.4	臼杵城	(注229)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	東北	☆	94×70
	明和1.8	赤穂城	(注230)	◎	○	○	×	○	×	×	○	×	東	☆	40.9×27.9
	明和2.11.6	田原城	(注231)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	東南	○	87.1×40.4
●	明和2	松代城	(注232)												※下書
●	明和2	米子城	(注233)												114×102　※下図
	明和3.10.6	人吉城	(注234)	?	?	○	○	○	×	○	○	?	?	?	
●	明和3.10	宇都宮城	(注235)												80×65
●	明和5	岡山城	(注236)												
	明和6.10.16	人吉城	(注237)	?	?	△	○	○	×	○	○	?	?	?	
	明和6.11	高鍋城	(注238)	?	○	○	○	○	×	○	○	○	西	☆	
	明和6	山形城	(注239)	?	?	?	○	○	×	○	?	?	?	?	
●	明和6	岡山城	(注240)												
●	明和6	岡山城	(注241)												
●	明和7.3	佐伯城	(注242)												82×82
●	明和7.閏6	宇都宮城	(注243)												81.3×55.4
	明和7	豊後府内城	(注244)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	北	☆	114×107
	明和7	豊後府内城	(注245)	◎	○	○	○	○	×	○	○	?	北	☆	134×116
●	明和7	岡城	(注246)	?	○	?	?	?	?	?	?	?	?	?	
●	明和9.10	岡山城	(注247)												

●	明和９	岡山城	(注248)											
	安永２.９	人吉城	(注249)	？	？	△	○	○	×	○	○	？	？	？	
	安永６.８	尼崎城	(注250)	◎	○	○	○	△	×	○	○	×	南	☆	104×92
	安永７.８	松江城	(注251)	◎	×	○	○	○	×	○	○	○	西	☆	89×74
	安永７.12	尼崎城	(注252)	◎	○	○	○	△	×	○	○	×	南	○	
	安永９	松嶺城	(注253)	×	×	○	○	○	×	○	×	○	東	×	96×67
	天明２.７	小浜城	(注254)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	南	☆	
	天明２.９.23	米子城	(注255)	◎	×	○	○	○	×	○	○	○	南	×	93×92　※控
	天明２.10	加納城	(注256)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	西	◎	95.7×93.8
	天明４.４	田丸城	(注257)	☆	×	○	○	△	○	○	○	×	東	☆	
	天明５.２	徳島城	(注258)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	西	☆	119.2×86.4
	天明５.２	徳島城	(注259)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	西	○	
	天明５	三春城	(注260)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	西北	☆	
	天明６.閏10	笠間城	(注261)	◎	×	○	○	○	×	○	×	○	南	☆	
	天明７	涌谷要害	(注262)	？	？	？	○	○	×	？	○	？	？	☆	
	天明８.12.13	姫路城	(注263)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	西	☆	104×88
●	天明８	岡山城	(注264)												
●	天明８	岡山城	(注265)												
	寛政１.８.５	人吉城	(注266)	？	？	△	○	○	×	○	○	？	？	？	
	寛政４.８	西尾城	(注267)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	西北	☆	110×72　※控絵図
	寛政４ヵ	鳥羽城	(注268)	◎	○	○	○	？	？	○	○	×	東北	☆	
●	寛政５.１.28	米子城	(注269)											×	95×94　※控
	寛政７.３	平城	(注270)	◎	○	○	○	×	×	○	○	○	東	☆	85.7×85.7
	享和１.12.23	津山城	(注271)	×	×	×	×	×	×	○	○	○	(北)	×	93.5×71　※控図
	享和１.12	田原城	(注272)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	東南	☆	
	(享和３.５.１)	土浦城	(注273)	×	×	○	×	△	×	×	○	○	西北	×	
	享和３.８	人吉城	(注274)	？	？	○	○	○	×	○	○	？	？	？	
	享和４	山形城	(注275)	？	？	？	○	○	×	○	○	？	？	？	
	文化１.３	西尾城	(注276)	◎	○	○	○	×	×	○	○	×	西北	☆	※控絵図
	文化１.８	人吉城	(注277)	？	？	○	○	○	×	○	○	？	？	？	
	文化２.５	本荘城	(注278)	◎	○	○	○	○	×	○	○	？	南	☆	
	文化４.12	鳥取城	(注279)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	東北	×	91×87　※控図
	文化５.11	壬生城	(注280)	◎	×	○	○	？	×	○	？	○	西	○	
	文化５	金沢城	(注281)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	南	×	198×114
	文化６.８	津山城	(注282)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	北	☆	191.5×154.3
●	文化７.10	島原城	(注283)												130.8×59.2
	文化７	越前大野城	(注284)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	西北	☆	129×96
●	文化８	萩城	(注285)												
	文化10.５	浜田城	(注286)	◎	×	○	○	×	×	○	○	○	西	☆	95×79　※控図
	文化13	岡山城	(注287)	◎	○	○	○	△	×	○	○	×	西	×	
	文化13	小倉城	(注288)	？	？	○	○	○	×	○	○	？	？	？	
●	文化13	岡山城	(注289)												
●	文化14.４	岡山城	(注290)												
●	文化14	岡山城	(注291)												
●	文政２.７	彦根城	(注292)	◎	○	？	？	？	？	？	？	？	？	☆	
	文政５	豊後府内城	(注293)	◎	○	○	○	○	×	○	○	？	北	☆	112×112
	文政６.１	豊後府内城	(注294)	◎	○	○	○	○	×	○	○	？	北	☆	110×108
	文政６.９.29	出石城	(注295)	◎	×	○	○	○	×	○	○	○	南	☆	94×81
●	文政７	岡山城	(注296)												
	文政８.３	大垣城	(注297)	◎	×	○	○	○	×	○	○	○	西	☆	

	文政8.7	大田原城	(注298)	◎	○	○	○	○	×	○	○	?	東北	☆	86×57（135×68）
●	文政8.4	岡山城	(注299)												
●	文政9.12	岡山城	(注300)												
●	文政9	岡山城	(注301)												
●	文政9	岡山城	(注302)												
●	文政9	岡山城	(注303)												
	文政10	小倉城	(注304)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	南	○	127.5×119.8
	文政11.2	越前大野城	(注305)	◎	○	○	○	○	×	○	○	?	?	☆	
	文政11.7.22	白河城	(注306)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	北	○	99.4×74.5
	文政12.3	三原城	(注307)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	南	☆	
	天保3.6	富山城	(注308)	◎	○	○	○	?	×	○	×	×	南	☆	
	天保3	白河城	(注309)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	南	☆	102.2×73.2
	(天保6)	彦根城	(注310)	◎	○	○	○	×	×	○	○	×	西南	☆	102×64　※控
	天保8.6	西尾城	(注311)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	西北	☆	89.8×78.5
●	天保8	萩城	(注312)												
	天保9.8	岡山城	(注313)	◎	×	○	○	△	×	○	○	×	西	☆	
●	天保9.8	岡山城	(注314)												
●	天保9.8	岡山城	(注315)												
●	天保9	岡山城	(注316)												
	天保10.8.24	白河城	(注317)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	南	◎	103.3×73.3
	天保10	柳川城	(注318)	◎	×	○	○	○	×	○	○	?	西	×	
	天保11	松江城	(注319)	×	×	×	?	○	×	○	○	×	?	×	83×72
	天保頃	西尾城	(注320)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	西南	☆	114×92　※控絵図
	弘化2.6	中津城	(注321)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	西南	☆	
	弘化3	白河城	(注322)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	東	☆	104×73
	弘化4.5.27	関宿城	(注323)	◎	×	○	○	○	×	○	○	○	北	☆	99×89
	弘化4.5	鳥取城	(注324)	◎	○	○	○	○	×	○	×	○	東北	×	105×95　※控図
●	弘化4.6	米子城	(注325)												100×90　※下図
●	弘化4.11	岡山城	(注326)												
●	弘化4.11	岡山城	(注327)												
●	弘化4.11	岡山城	(注328)												
●	弘化4.11	岡山城	(注329)												
	弘化4	白河城	(注330)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	東	☆	89.5×76.0
	弘化以前頃	西尾城	(注331)	×	×	△	×	○	×	○	○	○	西南	×	
	弘化5.1	松代城	(注332)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	西	×	※控
	嘉永1.4	米子城	(注333)	×	○	○	○	○	×	○	○	○	西南	◎	125×107　※控図
●	嘉永1	萩城	(注334)												
	嘉永1ヵ	館林城	(注335)	◎	×	○	○	○	×	○	○	×	西南	×	
	嘉永2	白河城	(注336)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	東	☆	90.5×81.0
	嘉永3.1	鳥取城	(注337)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	東北	×	108×93　※控図
	嘉永3.11	浜田城	(注338)	◎	×	○	○	×	×	○	○	○	西	☆	
	嘉永3.11.29	姫路城	(注339)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	西	☆	
	嘉永3	鳥羽城	(注340)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	東北	☆	
	嘉永3	沼津城	(注341)	◎	○	○	○	○	×	○	×	○	北	○	
	嘉永3ヵ	鳥取城	(注342)	×	×	○	○	○	×	○	○	○	東北	×	87×86　※下図ヵ
●	嘉永5.9	米子城	(注343)												91×88　※下図
	嘉永5.10	延岡城	(注344)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	北	☆	127.4×92.5
●	嘉永6.8.25	小田原城	(注345)											☆	108×106
	嘉永7.11	富山城	(注346)	◎	×	○	○	○	×	○	×	×	南	☆	
	嘉永7	人吉城	(注347)	×	×	△	○	○	×	○	○	×	南	×	

	安政２.７.４	尼崎城	(注348)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	南	☆	
	安政２.７	掛川城	(注349)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	北	☆	
●	安政２.７	佐伯城	(注350)												
●	安政２.９	米子城	(注351)												95×87　※控図
	安政２.11	延岡城	(注352)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	北	☆	121.7×90.3
	安政２	田原城	(注353)	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	東南	☆	
	安政２	大垣城	(注354)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	西	？	
	安政２	鳥羽城	(注355)	？	？	○	○	○	×	○	○	？	？	？	
	安政２	小倉城	(注356)	？	？	？	○	○	×	○	○	？	？	？	
●	安政２	伊賀上野城	(注357)												103.8×85.5
●	安政２ヵ	米子城	(注358)												96×88　※下図
●	安政２ヵ	米子城	(注359)												90×89　※下図
	安政３.２	金沢城	(注360)	◎	○	○	○	×	×	○	○	○	南	☆	192×112
	安政３.３	壬生城	(注361)	？	？	？	？	？	？	？	○	？	？	○	
	安政４.３	萩城	(注362)	◎	○	○	○	△	×	○	○	○	北	×	
	安政４.閏５	吉田城	(注363)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	北	☆	78×76
	安政４.閏５	吉田城	(注364)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	北	☆	79×76
●	安政４	萩城	(注365)												
	安政５.６	豊後府内城	(注366)	◎	○	○	○	○	×	○	○	？	北	☆	110×107
	安政５	鳥羽城	(注367)	◎	×	○	○	△	×	○	×	×	東北	☆	
●	安政７	萩城	(注368)												
	万延１.９	沼津城	(注369)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	北	☆	
	万延１.10	鳥取城	(注370)	◎	○	○	○	○	×	○	×	○	東北	×	107×95　※控図
	万延１.10	鳥取城	(注371)	◎	○	○	○	○	×	○	×	○	東北	×	107×95　※控図
	万延２.３	西尾城	(注372)	×	×	○	×	△	×	○	○	×	西北	×	
	万延２	萩城	(注373)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	北	×	
	文久１.６.28	萩城	(注374)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	北	☆	
	文久２.３	米子城	(注375)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	西南	×	114×89　※控図
●	文久２～３	岡山城	(注376)												
●	文久３.１	岡山城	(注377)												
	文久３.７	西尾城	(注378)	×	×	○	○	○	×	○	？	○	西南	×	※控
●	文久３.８	米子城	(注379)												94×91
●	文久３.８	米子城	(注380)												94×91
	文久３.８	岡崎城	(注381)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	西	○	
	文久３.10.７	小浜城	(注382)	◎	×	○	○	○	×	○	○	△	北	☆	
	文久（年月日未記載）	郡上八幡城	(注383)	◎	○	○	○	×	×	○	○	×	西	☆	
	元治１.３	松前城	(注384)	◎	○	○	○	○	×	○	○	○	北	◎	
	元治１.６	松江城	(注385)	◎	×	○	○	○	×	○	×	○	西	○	88×75
	元治１.７	西尾城	(注386)	◎	○	○	○	△	×	○	○	×	東南	◎	114×92
	慶応１.６.16	犬山城	(注387)	◎	○	○	○	○	×	○	○	？	東	◎	
	慶応１.６	大和郡山城	(注388)	◎	○	○	○	○	×	○	○	？	西	◎	
	慶応１.７	大和郡山城	(注389)	◎	○	○	○	○	×	○	○	？	西	◎	
	慶応１	園部陣屋	(注390)	×	×	○	×	×	×	○	×	？	？	×	
●	慶応１	松本城	(注391)												
●	慶応２	岡崎城	(注392)												
	慶応３.５.27	小浜城	(注393)	◎	×	○	○	○	×	○	○	△	北	○	
	慶応３.５	松本城	(注394)	◎	○	○	×	○	×	○	○	○	北	◎	
	慶応３.９.10	宮津城	(注395)	◎	×	○	○	○	×	○	○	×	西北	◎	
●	年次未詳（慶安２～寛文９）	福知山城	(注396)												110.1×96.4
	年次未詳（寛文期ヵ）	中津城	(注397)	×	○	○	○	○	×	○	×	？	？	×	

	年次未詳（19世紀頃ヵ）	姫路城	（注398）	◎	○	○	○	○	×	○	○	×	?	×	117×92
	年次未詳	佐伯城	（注399）	?	○	○	○	○	×	○	?	×	西南	?	
	年次未詳	伊勢亀山城	（注400）	×	○	○	○	○	×	○	×	×	北	×	
	年次未詳	金山要害	（注401）	?	?	○	?	○	○	○	○	?	?	?	
●	年次未詳	島原城	（注402）												85.8 ×61.0

【凡例】

①城名記載の有無→○○国○○城…◎、○州○○城…☆、○○城…○、城名記載なし…×

②一つ書きの有無

③方位記載の有無

④本丸・二の丸等記載の有無（各曲輪の該当箇所に記載されたケースを指す）

⑤建築物記載（描写）の有無

⑥城郭への進入経路記載の有無

⑦全体図であるかどうか→全体図…○、部分図…×

⑧朱引による修補箇所明示の有無

⑨大手方向を絵図の下に置くかどうか。置いた場合は○で示した。

⑩絵図上方の方位。

⑪花押の有無→花押があり、他に印章（印判）も押されているもの…◎、花押あり…○、花押はないが、「書判」などの記載あり…☆、花押なし…×

※筆者が絵図を実見（写真等での確認も含む）せず、その絵図の存在を博物館の図録等により確認したものは、各年次（年月日）の前に●を付して区別した。

※年月日は絵図に記載された年月日を示す。

※△…その記載様式が、明瞭に読み取れなかったもの。

※？…観察した写真が不鮮明である、或いは、部分写真である等の理由により、確認できなかったもの。絵図の天地が特定できなかった場合も？で示した。

※鳥取城修補願絵図・米子城修補願絵図の「控図・下図」の種別は、『鳥取藩政資料目録』（鳥取県立博物館、1997年）による。

※福井城修補願絵図の「控」の種別は、『松平文庫目録』（福井県立図書館、1968年）による。

※岡山城修補願絵図の「控（絵図）・写・下絵図」の種別は、『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（岡山大学附属図書館、1971年）による。

※小田原城修補願絵図の「写」の種別は、『小田原市史』別編　城郭（小田原市、1995年、508頁）による。

※平城修補願絵図の「下絵図」の種別は、図録『戦国の城』（福島県立博物館、1998年、32頁）による。

※西尾城修補願絵図の「控絵図」の種別は、図録『大給松平氏と城郭絵図』（西尾市資料館、2001年）による。

※浜田城修補願絵図の「控図」の種別は、図録『松平周防守家の成立と浜田』（浜田市教育委員会編集、浜田市世界こども美術館発行、1999年）による。

※彦根城修補願絵図の「控」の種別は、図録『彦根城の修築とその歴史』（彦根城博物館編集、彦根市教育委員会発行、1995年）による。

※松代城修補願絵図の「控・下書」の種別は、前島卓・山崎佐織・河野聡子「松代城の調査概要」（『松代－真田の歴史と文化－』10号、1997年、真田宝物館、93頁）による。

※新発田城修補願絵図の「控図」の種別は、『写真集　城下町新発田』（新発田古地図等刊行会、1981年、15頁）による。

※小松城修補願絵図の「写」の種別は、『新修小松市史』資料編１、小松城（小松市、1999年）による。

【注】

（注１）木島孝之『城郭の縄張り構造と大名権力』（九州大学出版会、2001年、図版篇〔細川領・図２－２〕）。『再見　城下町小倉』図録（北九州市立歴史博物館、1998年、22頁）。『小倉城跡３（北九州市埋蔵文化財調査報告書197集）』（財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室、1997年、13頁）。『復元大系日本の城』８巻（ぎょうせい、1992年、15頁）に収載されている絵図も、部分的な写真ではあるが同じものであると推測される。なお、この修補願絵図の存在については、油浅耕三「「豊前国小倉城絵図」について」（『日本建築学会東海支部研究報告』、1979年、263頁、264頁）においても指摘されている。

（注２）前掲『復元大系日本の城』８巻（15頁）。『熊本城』〈歴史群像名城シリーズ２〉（学習研究社、1994年、43頁）。『剣聖宮本武蔵～激闘の生涯～』（成美堂出版、2002年、口絵カラー写真〔10頁〕、97頁）。『綿考輯録』４巻（汲古書院、1989年、403頁）、『新熊本市史』史料編３巻（熊本市、1994年、190頁）には同日付の「覚」が収載されている。このほか、『細川家史料』〈大日本近世史料〉11巻（東京大学出版会、1988年、717号文書、191頁）、同18

巻（東京大学出版会、2002年、2416号文書、33頁）にも関係史料が収載されている。

（注３）図録『徳島城下絵図』（徳島市立徳島城博物館、2000年、24頁）。この図録の存在については、本田昇氏より御教示をいただいた。

（注４）図録『阿波の華　徳島城』（徳島市立徳島城博物館、1999年、６頁）。前掲・図録『徳島城下絵図』（25頁）。

（注５）図録『戦国の城』（福島県立博物館、1998年、42頁）。

（注６）図録『城郭を描く』（兵庫県立歴史博物館、1998年、43頁）。これは、陣屋移転の申請に関する絵図である。

（注７）図録『園部藩と城』（園部文化博物館、1999年、７頁）。

（注８）前掲・図録『徳島城下絵図』（26頁）。

（注９）『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（岡山大学附属図書館、1971年、661頁）。

（注10）前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（661頁）。

（注11）前掲・木島孝之『城郭の縄張り構造と大名権力』（図版篇〔黒田領・図１－３〕）。

（注12）前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（661頁）。

（注13）『小田原市史』別編　城郭（小田原市、1995年、508頁）。『復元大系日本の城』２巻（ぎょうせい、1993年、58頁）。

（注14）油浅耕三「「土佐国（高知）城絵図」について（その１）」（『日本建築学会東海支部研究報告』、1979年、253、254頁）。同「「土佐国（高知）城絵図」について（その２）」（『日本建築学会東海支部研究報告』、1979年、260頁）。

（注15）『島原市本光寺所蔵古文書調査報告書』（島原市教育委員会、1994年、193頁）。

（注16）金沢大学附属図書館所蔵。この絵図の存在については、木越隆三氏（金沢城研究調査室）より御教示をいただいた。木越氏の御教示によれば、絵図の裏面に願書の条書がある。この絵図については、木越隆三「金沢城全域絵図の分類と編年－金沢城絵図調査報告Ⅰ－」（『研究紀要　金沢城研究』２号、石川県教育委員会事務局文化財課・金沢城研究調査室、2004年）において詳細な分析がなされており、絵図の写真も収載されている。なお、この絵図と同類の絵図との関係については、「金沢城全域絵図目録」（『研究紀要　金沢城研究』創刊号、石川県教育委員会事務局文化財課・金沢城研究調査室、2003年、43頁の〔整理番号272、248、５〕）を参照されたい。

（注17）金沢市立玉川図書館加越能文庫所蔵。この絵図は虫喰いにより大きく欠損している箇所がある。この絵図の存在については、木越隆三氏より御教示をいただいた。

（注18）『新修小松市史』資料編１、小松城（小松市、1999年、278～279頁）。この絵図は寛文２年の絵図（写）を天和３年に写したものである。

（注19）『復元大系日本の城』５巻（ぎょうせい、1992年、123頁）。

（注20）日南市所蔵（飫肥城歴史資料館に展示されている絵図）。この修補願絵図では、朱引による修補箇所の明示はないが、朱印（＝朱色の●）により修補箇所が明示されている。

（注21）前掲『復元大系日本の城』５巻（123頁）。

（注22）『太陽コレクション　城下町古地図散歩３』（平凡社、1996年、69頁）。

（注23）前掲・図録『戦国の城』（42頁）。

（注24）『新庄市史』２巻（新庄市、1992年、口絵）。『新庄市史』３巻（新庄市、1994年、152頁）。

（注25）前掲『復元大系日本の城』５巻（79頁）。

（注26）巴江神社所蔵（増山禎之「田原城の絵図について（その１）」、『愛城研報告』２号、1995年、205頁）。

（注27）前田育徳会尊経閣文庫所蔵。この絵図の存在については、木越隆三氏より御教示をいただいた。この絵図については、前掲・木越隆三「金沢城全域絵図の分類と編年－金沢城絵図調査報告Ⅰ－」において詳細な分析がなされており、絵図の写真も収載されている。なお、この絵図と同類の絵図との関係については、前掲「金沢城全域絵図目録」（43頁の〔整理番号273、249〕）を参照されたい。この絵図の両端の折れ目の部分には、それぞれ「御印判」と記されているので、幕府へ提出した原本の絵図は２枚を継ぎ合わせたものであり、その継ぎ目に印判を押した可能性も考えられる。

（注28）『米子城資料』１集（米子市立山陰歴史館、1990年、３頁）。『復元大系日本の城』６巻（ぎょうせい、1992年、158頁）。『歴史群像シリーズ・よみがえる日本の城６　萩城』（学習研究社、2004年、49頁）。

（注29）『松平文庫目録』（福井県立図書館、1968年、182、202頁）。『松平文庫　福井藩史料目録』（福井県立図書館、1989年、39頁）。この絵図について木越隆三氏は「城下町図で修補願文がないので修補願図というより被災届のための幕用図とみた方がよいのではないか」と指摘されている（前掲・木越隆三「金沢城全域絵図の分類と編年－金沢城絵図調査報告Ⅰ－」（36頁）。

（注30）前掲・図録『戦国の城』（32頁）。

（注31）前田育徳会尊経閣文庫所蔵。この絵図の存在については、木越隆三氏より御教示をいただいた。この絵図については、前掲・木越隆三「金沢城全域絵図の分類と編年－金沢城絵図調査報告Ⅰ－」において詳細な分析がなされており、絵図の写真も収載されている。なお、この絵図に関しては、前掲「金沢城全域絵図目録」（43頁の〔整理番号

275〕）も参照されたい。

(注32) 前掲『島原市本光寺所蔵古文書調査報告書』（口絵３、194頁）。

(注33) 前掲『小田原市史』別編　城郭（438～439頁）。『神奈川県史』資料編４、近世１（神奈川県、1971年、口絵）。前掲『復元大系日本の城』２巻（58頁）。

(注34) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（661頁）。

(注35) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（661頁）。

(注36) 岡山大学附属図書館池田家文庫所蔵。金川陣屋は、岡山藩家老日置氏の陣屋である。このように、陪臣の陣屋修復（石垣修復）について、大名（池田氏）が幕府に申請したケースは珍しい。

(注37) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（661頁）。

(注38) 田中哲雄『城の石垣と堀』〈日本の美術403号〉（至文堂、1999年、27図）。『石垣調査報告書－史跡松江城－』（松江市教育委員会、1996年、58、63頁）。

(注39) 前掲『復元大系日本の城』５巻（46頁）。

(注40)『県指定史跡臼杵城跡保存整備計画策定書』（臼杵市、1992年、59頁）。前掲『復元大系日本の城』８巻（106頁）。絵図中に城名記載はないが、「豊後国臼杵」という記載はある。

(注41)『高山城総合学術調査報告書』（財団法人金森公顕彰会、1988年、25頁）。

(注42) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（661頁）。

(注43) 前掲・図録『戦国の城』（32頁）。

(注44) 前掲・図録『戦国の城』（32頁）。

(注45) 前掲・図録『戦国の城』（32頁）。

(注46) 山口県文書館所蔵。この絵図は、他の萩城修補願絵図と異なり、天守曲輪を中心に描かれ、本丸・二丸・二曲輪・三曲輪が描かれていない。

(注47) 図録『富山城の歴史』（富山市郷土博物館、2003年、３頁）。この図録の存在及び内容については、高田徹氏より御教示をいただいた。『復元大系　日本の城』３巻（ぎょうせい、1992年、62頁）。

(注48)『絵図が語る大野』（大野市歴史民俗資料館、1994年、３頁）。

(注49) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（661頁）。

(注50)『図説　高島城と諏訪の城』（郷土出版社、1995年、７頁）。

(注51)『鳥取県立博物館所蔵　鳥取城絵図集』（鳥取県立博物館資料刊行会、1998年、４頁）。前掲『復元大系日本の城』６巻（118頁）。前掲『歴史群像シリーズ・よみがえる日本の城６　萩城』（45頁）。朱引による修補箇所の明示はないが、○△□の各記号を絵図中の石垣崩壊箇所にそれぞれ記入し、その各箇所の説明を「破損之覚」として絵図の右下部分でおこなっている。この「破損之覚」においても○△□の各記号を記入し、その下にそれぞれ石垣崩壊箇所の説明を記している。

(注52) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（661頁）。

(注53) 前掲・図録『戦国の城』（32頁）。

(注54) 田原町博物館所蔵（前掲・増山禎之「田原城の絵図について（その１）」、205頁）。

(注55) 前掲『鳥取県立博物館所蔵　鳥取城絵図集』（６頁）。

(注56) 前掲『島原市本光寺所蔵古文書調査報告書』（口絵２、194頁）。建築物の描写は門のみを描いている。

(注57) 前掲『加越能文庫解説目録』上巻（153頁）。

(注58) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（661頁）。

(注59) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（661頁）。

(注60) 前掲『島原市本光寺所蔵古文書調査報告書』（194頁）。

(注61) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（661頁）。

(注62) 日南市教育委員会所蔵（図録『天下統一と城』、国立歴史民俗博物館編集、読売新聞社発行、2000年、39頁）。前掲・木島孝之『城郭の縄張り構造と大名権力』（図版篇〔相良領・伊東領・図９－16－１、図９－16－２〕）。

(注63)『復元大系日本の城』７巻（ぎょうせい、1993年、43頁）。

(注64) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（661頁）。

(注65) 前掲・図録『戦国の城』（32頁）。

(注66) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（661頁）。

(注67) 薩日内良則「仙台藩要害の成立について」（『東北歴史資料館研究紀要』６巻、東北歴史資料館、1980年、133頁）。この修補願絵図中の城名（要害名）記載は「柴田郡前川村之内川崎私要害屋敷」となっている。曲輪名の記載はないが、本丸に該当する部分を「居所」と記載している。

(注68)『群馬県史』資料編14（群馬県、1986年、口絵１）。『関東の華・前橋城』（前橋市観光協会）。

(注69) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（661頁）。

（注70）前掲・図録『絵図が語る大野』（14頁）。
（注71）前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（661頁）。
（注72）前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（661頁）。
（注73）前掲『島原市本光寺所蔵古文書調査報告書』（194頁）。
（注74）前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（661頁）。
（注75）前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（661頁）。
（注76）前掲『米子城資料』１集（４頁）。
（注77）前掲『新庄市史』２巻（口絵）。『復元大系日本の城』１巻（ぎょうせい、1993年、147頁）。花押については、花押の上から墨で塗りつぶしている。
（注78）福山宗志「涌谷要害石垣修復工事の調査から」（『第21回全国城郭研究者セミナー「近世城郭を見直す」』レジュメ、中世城郭研究会、2004年、８頁）。この修補願絵図の表題の城名（要害名）記載は「遠田郡涌谷居館」となっている。
（注79）前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（661頁）。
（注80）『舞鶴市文化財調査報告』22集（舞鶴市教育委員会、1993年、14頁）。
（注81）『大日本古文書』〈相良家文書之二〉（東京帝国大学、1918年、挿入図）。なお、城名については、「端裏ニ「肥後国球麻郡人吉庄城之図」トアリ」という注記がある。
（注82）『田原町史』中巻、所収（前掲・増山禎之「田原城の絵図について（その１）」、205頁）。ただし、原本は行方不明。
（注83）前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。
（注84）『川越市史』史料編　近世Ⅰ（川越市、1978年、254頁）。
（注85）前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。
（注86）前掲『島原市本光寺所蔵古文書調査報告書』（194頁）。
（注87）前掲・図録『絵図が語る大野』（15頁）。
（注88）前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。
（注89）前掲・木島孝之『城郭の縄張り構造と大名権力』（図版篇〔島津領・図８－２〕）。
（注90）小林清治編『仙台城と仙台領の城・要害』（名著出版、1982年、156～157頁）。この修補願絵図の年月日について、『仙台城と仙台領の城・要害』（156～157頁）では、元禄９年11月12日とするが、同書155頁では、元禄９年11月22日とする。この修補願絵図は、「要害修復のため中島家より仙台藩へ提出したもの」（同書155頁）である。なお、元禄９年11月の金山要害の修補願絵図は、『日本城郭大系』３巻（新人物往来社、1981年、366頁）にも収載されている。
（注91）前掲・薩日内良則「仙台藩要害の成立について」（133頁）。
（注92）前掲・福山宗志「涌谷要害石垣修復工事の調査から」（８頁）。この修補願絵図の表題の城名（要害名）記載は「遠田郡涌谷要害屋敷」となっている。
（注93）前掲・福山宗志「涌谷要害石垣修復工事の調査から」（８頁）。この修補願絵図の表題の城名（要害名）記載は「遠田郡涌谷私要害屋敷」となっている。
（注94）前掲『島原市本光寺所蔵古文書調査報告書』（194頁）。
（注95）前掲『島原市本光寺所蔵古文書調査報告書』（101頁）。
（注96）前掲『図説　高島城と諏訪の城』（84頁）。
（注97）田原町博物館所蔵（前掲・増山禎之「田原城の絵図について（その１）」、206頁）。この絵図は同一種のものが２枚存在するが、実見したところ、両者の相違は建物の表現方法に差異が見られる。
（注98）前掲『島原市本光寺所蔵古文書調査報告書』（194頁）。
（注99）前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。
（注100）前掲『川越市史』史料編　近世Ⅰ（278頁）。
（注101）『日本城郭大系』15巻（新人物往来社、1979年、口絵42）。前掲『復元大系日本の城』７巻（110頁）。この修補願絵図における修補箇所は、それぞれ●印で示され、そこから線を引いて「此朱丸之所…」として注記がされている。
（注102）前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。
（注103）『鳥取藩政資料目録』（鳥取県立博物館、1997年、431頁）。
（注104）『仙石氏史料集』（上田市立博物館、1984年、103頁）。前掲『復元大系日本の城』３巻（139頁）。
（注105）『羽州新庄城および同城下町の研究』〈新庄城跡隅櫓等復元整備事業基礎調査報告書〉（新庄市教育委員会、1987年、43頁）。この絵図については、実見していないため、同書の記載をもとに引用した。なお、この絵図は藩側の控絵図であるが、その下絵図も別に存在し、その大きさは、65.6×44.9㎝である（同書、43頁）。
（注106）前掲『鳥取藩政資料目録』（431頁）。
（注107）前掲『川越市史』史料編　近世Ⅰ（292頁）。

(注108) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』(662頁)。
(注109) 太田秀春「仙台藩の藩体制と支城」(前掲『第21回全国城郭研究者セミナー「近世城郭を見直す」』レジュメ、163頁)。前掲『日本城郭大系』3巻（373頁)。
(注110) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』(662頁)。
(注111)『復元大系日本の城』9巻（ぎょうせい、1993年、88～89頁)。
(注112) 前掲『松平文庫目録』(183、208頁)。前掲『松平文庫　福井藩史料目録』(39頁)。
(注113)『日本城郭大系』2巻（新人物往来社、1980年、378頁)。
(注114) 前掲『日本城郭大系』2巻（口絵56)。
(注115) 巴江神社所蔵（前掲・増山禎之「田原城の絵図について（その1)」、206頁)。
(注116) 前掲・油浅耕三「「土佐国（高知）城絵図」について（その2)」(257、260頁)。
(注117) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』(662頁)。
(注118) 前掲『島原市本光寺所蔵古文書調査報告書』(194頁)。
(注119) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』(662頁)。
(注120) 巴江神社所蔵（前掲・増山禎之「田原城の絵図について（その1)」、206頁)。
(注121)『山口県文書館史料目録』3〈毛利家文庫目録　第3分冊〉(山口県文書館、1972年、86頁)。
(注122)『姫路市史』14巻（姫路市、1988年、付図6)。図録『姫路城絵図展』(姫路市立城郭研究室、1998年、36頁)。
(注123)『館林城調査報告書』1集（館林市教育委員会文化振興課、1994年、口絵)。前掲『復元大系日本の城』2巻（150頁)。
(注124) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』(662頁)。
(注125) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』(662頁)。
(注126) 熊本県立図書館所蔵。この絵図の存在については、鶴嶋俊彦氏より御教示をいただいた。
(注127) 前掲・福山宗志「涌谷要害石垣修復工事の調査から」(8頁)。この修補願絵図の表題の城名（要害名）記載は「遠田郡涌谷要害屋敷」となっている。
(注128) 図録『絵図にみる城と城下町』(千葉県立総南博物館、2002年、7、32頁)。この図録の存在及びその内容については、高田徹氏より御教示をいただいた。
(注129) 前掲・図録『絵図が語る大野』(20頁)。前掲『復元大系日本の城』3巻（151頁)。
(注130) 山口県文書館所蔵。
(注131) 前掲・福山宗志「涌谷要害石垣修復工事の調査から」(8頁)。この修補願絵図の表題の城名（要害名）記載は「遠田郡涌谷私要害屋敷」となっている。
(注132) 笠間稲荷神社所蔵。絵図の大きさは、図録『築城400年記念『甦る延岡城』』(延岡市教育委員会文化課、2003年、103頁）による。
(注133)『復元大系日本の城』4巻（ぎょうせい、1992年、94頁)。城名は「甲斐国府中城」と記されている。
(注134) 前掲・図録『姫路城絵図展』(45頁)。
(注135) 前掲『太陽コレクション　城下町古地図散歩3』(95頁)。『岐阜県中世城館跡総合調査報告書』1集〈西濃地区・本巣郡〉(岐阜県教育委員会、2002年、241頁)。前掲『復元大系日本の城』4巻（102頁)。
(注136) 田原町博物館所蔵（前掲・増山禎之「田原城の絵図について（その1)」、207頁)。
(注137) 前掲『復元大系日本の城』8巻（58頁)。
(注138) 尼崎市教育委員会・歴史博物館準備室所蔵。この絵図の存在については、同準備室の室谷公一氏より御教示をいただいた。
(注139) 笠間稲荷神社所蔵。絵図の大きさは、前掲・図録『築城400年記念『甦る延岡城』』(103頁）による。
(注140) 図録『特別展　松代城』(真田宝物館、1996年、18頁)。前島卓・山崎佐織・河野聡子「松代城の調査概要」(『松代－真田の歴史と文化－』10号、真田宝物館、1997年、92、93頁)。前掲『復元大系日本の城』3巻（159頁)。
(注141) 前掲『米子城資料』1集（16頁)。
(注142) 巴江神社所蔵（前掲・増山禎之「田原城の絵図について（その1)」、207頁)。
(注143) 前掲・太田秀春「仙台藩の藩体制と支城」(165頁)。この修補願絵図の表題の城名（要害名）記載は「黒川郡宮床要害屋敷」となっている。なお、太田秀春氏は、宮床要害は元禄8年～享保16年に「所」から「要害」へ一時的に格上げされた、と指摘している。
(注144) 図録『大給松平氏と城郭絵図』(西尾市資料館、2001年、5頁)。建築物については、門は立体的に描かれているが、天守は「天守」という文字で表記し、櫓は「櫓」という文字で表記している。
(注145) 山口県文書館所蔵。
(注146) 巴江神社所蔵（前掲・増山禎之「田原城の絵図について（その1)」、207頁)。
(注147)『諏訪市史』中巻（諏訪市、1988年、706頁)。

（注148）『岩村町文化財図録』（岩村町教育委員会、1994年、42頁）。前掲『復元大系日本の城』４巻（118頁）。

（注149）『苗木城絵図輯録』（中津川市教育委員会、中津川市苗木遠山史料館）。中津川市苗木遠山史料館所蔵のこの修補願絵図を実見したところ、修補申請箇所の朱引は記載されているものの、それに対応するそれぞれの崩壊箇所の間数等は記されていない。この絵図の裏面に貼付された紙片には、最初、蜷川親和（宝永７年より表右筆、享保10年より同19年まで表右筆組頭）に見せたところ、絵図が大きすぎる点を指摘されたことが記されている。

（注150）前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。

（注151）笠間稲荷神社所蔵。

（注152）前掲『島原市本光寺所蔵古文書調査報告書』（194頁）。

（注153）『写真集　城下町新発田』（新発田古地図等刊行会、1981年、15頁）。前掲『復元大系日本の城』３巻（98頁）。修補箇所については、朱引ではなく付箋で明示されているが、その理由はこの絵図が控図であったことに起因すると考えられる。

（注154）前掲・福山宗志「涌谷要害石垣修復工事の調査から」（８頁）。この修補願絵図の表題の城名（要害名）記載は「遠田郡涌谷私要害屋敷」となっている。

（注155）前掲『鳥取県立博物館所蔵　鳥取城絵図集』（８頁）。方位記載は南と西のみである。また、本来朱引である部分は、単に墨による直線で引かれている。このようにした理由は本図が下図であることに起因すると思われる。

（注156）前掲『鳥取県立博物館所蔵　鳥取城絵図集』（９頁）。

（注157）前掲『鳥取県立博物館所蔵　鳥取城絵図集』（９頁）。方位記載は西のみである。また、本来朱引である部分は、単に墨による直線で引かれている。このようにした理由は本図が控図であることに起因すると思われる。

（注158）『豊田の古絵図』（豊田市、1996年、631～632頁）。この絵図には、申請箇所（土手１ケ所の修復）以外に、申請とは関係のない多くの記載（「瓦塀高七尺」など）があるので、花押はあるものの、幕府へ提出した清絵図ではなく、下絵図、或いは、藩側の控絵図の可能性が考えられる。

（注159）宮城県図書館所蔵「仙台城普請奉窺御絵図」。この絵図の年月日については、年月は判読できるが、日付の部分は摩滅していて判読できない。

（注160）前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。

（注161）前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。

（注162）前掲『山口県文書館史料目録』３〈毛利家文庫目録　第３分冊〉（86頁）。

（注163）前掲『復元大系日本の城』９巻（90頁）。

（注164）薩日内良則「再度仙台藩の要害について－要害の性格について－」（『東北歴史資料館研究紀要』７巻、東北歴史資料館、1981年、95頁）。この修補願絵図中の城名（要害名）記載は「栗原郡高清水私要害屋鋪」となっている。曲輪名の記載はないが、内堀より内部の部分を「居所」と記載している。

（注165）前掲・図録『大給松平氏と城郭絵図』（８頁）。建築物については、門は立体的に描かれているが、櫓は「櫓」という文字で表記している。

（注166）前掲『復元大系日本の城』７巻（42頁）。前掲『復元大系日本の城』９巻（90頁）。この絵図には、享保９年４月21日に江戸へ遣わした絵図の控えであると記されているので、今治藩の国元より江戸の藩邸に送った下絵図であったと考えられる。絵図中において、それぞれの修補申請箇所には直線を引き、個々に●▲■の記号を付して、その下に各申請箇所の間数等を記している。

（注167）前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。

（注168）『名城を歩く21仙台城』（ＰＨＰ研究所、2004年、22頁）。

（注169）小倉強『仙台城の建築』（仙台高等工業学校、1930年）所収。

（注170）前掲『復元大系日本の城』３巻（145頁）。建築物については、「櫓門」や「櫓」という文字を四角の枠で囲って表記している。

（注171）前掲『山口県文書館史料目録』３〈毛利家文庫目録　第３分冊〉（86頁）。

（注172）前掲・福山宗志「涌谷要害石垣修復工事の調査から」（８頁）。この修補願絵図の表題の城名（要害名）記載は「遠田郡涌谷私要害屋敷」となっている。

（注173）巴江神社所蔵（前掲・増山禎之「田原城の絵図について（その１）」、207頁）。

（注174）前掲・福山宗志「涌谷要害石垣修復工事の調査から」（８頁）。この修補願絵図の表題の城名（要害名）記載は「遠田郡涌谷私要害屋敷」となっている。

（注175）前掲『小田原市史』別編　城郭（456～457頁、519～520頁）。

（注176）前掲『小田原市史』別編　城郭（519頁）。

（注177）図録『特別展　仙台城－しろ・まち・ひと－』（仙台市博物館、2001年、31頁）。

（注178）前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。

（注179）前掲『復元大系日本の城』６巻（103頁）。

(注180) 前掲『復元大系日本の城』４巻（119頁）。
(注181) 図録『特別展　城郭物語』（兵庫県立歴史博物館、1992年、113頁）。
(注182) 前掲『日本城郭大系』２巻（口絵55）。
(注183) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。
(注184) 『松平氏史料集』（上田市立博物館、1985年、68頁）。前掲『復元大系日本の城』３巻（138頁）。前掲『復元大系日本の城』９巻（91頁）。
(注185) 『城郭研究室年報』７号（姫路市立城郭研究室、1998年、口絵）。前掲・図録『姫路城絵図展』（37頁）。『姫路城世界遺産登録10周年記念事業記念展覧会「江戸の修理、昭和の整備」』パンフレット（姫路市・姫路市教育委員会、2003年、２頁）。
(注186) 『常設展示ガイドブック』（兵庫県立歴史博物館、1996年、73頁）。
(注187) 前掲・図録『大給松平氏と城郭絵図』（９頁）。建築物については、門は立体的に描かれているが、櫓は「櫓」という文字で表記している。
(注188) 『小田原城』（学研、1995年、78～79頁）。前掲『小田原市史』別編　城郭（519～520頁）。
(注189) 図録『三春城と城下町』（三春町歴史民俗資料館、1998年、33頁）。
(注190) 前掲・図録『城郭を描く』（46頁）。
(注191) 前掲『復元大系日本の城』７巻（107頁）。この絵図において「京極佐渡守」の署名の下には「印判」と「書判」という記載がある。
(注192) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。
(注193) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。
(注194) 前掲・図録『大給松平氏と城郭絵図』（10頁）。建築物については、門は立体的に描かれているが、櫓は「櫓」という文字で表記している。
(注195) 前掲・図録『城郭を描く』（47頁）。前掲『石垣調査報告書－史跡松江城－』（58、64頁）。
(注196) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。
(注197) 巴江神社所蔵（前掲・増山禎之「田原城の絵図について（その１）」、208頁）。
(注198) 宮城県図書館所蔵「陸奥国仙台城絵図」。
(注199) 山口県文書館所蔵。
(注200) 山口県文書館所蔵。花押に該当する位置の部分は絵図から切り取られている。
(注201) 前掲・図録『特別展　城郭物語』（125頁）。
(注202) 笠間稲荷神社所蔵。絵図の大きさは、前掲・図録『築城400年記念『甦る延岡城』』（103頁）による。
(注203) 前掲『小田原市史』別編　城郭（519～520頁）。
(注204) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。
(注205) 前掲・図録『特別展　松代城』（７、19頁）。前掲・前島卓他２名「松代城の調査概要」（92、93頁）。
(注206) 前掲・図録『絵図にみる城と城下町』（10、32頁）。
(注207) 図録『豊後府内城』（大分市歴史資料館、1995年、５頁）。
(注208) 図録『赤穂城絵図展』（赤穂市立歴史博物館、2000年、16頁）。この図録の存在については、高田徹氏より御教示をいただいた。
(注209) 山口県文書館所蔵。建築物については、「櫓」という文字を□の枠で囲って表記している。
(注210) 『城郭研究室年報』９号（姫路市立城郭研究室、2000年、口絵）。
(注211) 内藤記念館（延岡市）に展示されている絵図（写）（原図は明治大学刑事博物館所蔵）。この絵図において「内藤備後守」の署名の下には「印判」と「据判」いう記載がある。
(注212) 『秋田県史』２巻（秋田県、1964年、138頁）。
(注213) 前掲・前島卓他２名「松代城の調査概要」（92、93頁）。
(注214) 『史跡　人吉城跡VI』（人吉市教育委員会、1993年、22頁）。この発掘調査報告書の存在については、鶴嶋俊彦氏より御教示をいただいた。
(注215) 慶応大学図書館所蔵。この絵図の存在については、鶴嶋俊彦氏より御教示をいただいた。
(注216) 前掲・図録『姫路城絵図展』（37頁）。
(注217) 前掲『島原市本光寺所蔵古文書調査報告書』（200頁）。
(注218) 慶応大学図書館所蔵。この絵図の存在については、鶴嶋俊彦氏より御教示をいただいた。
(注219) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。
(注220) 前田育徳会尊経閣文庫所蔵。この絵図の存在については、木越隆三氏より御教示をいただいた。この絵図については、前掲・木越隆三「金沢城全域絵図の分類と編年－金沢城絵図調査報告Ⅰ－」において詳細な分析がなされており、絵図の写真も収載されている。なお、この絵図に関しては、前掲「金沢城全域絵図目録」（44頁の〔整理番号

279〕）では藩用図としているが、幕用図とするのが正しい。

(注221)「教啓録」（『豊前叢書』２巻、国書刊行会、1981年、97～98頁）。

(注222) 慶応大学図書館所蔵。この絵図の存在については、鶴嶋俊彦氏より御教示をいただいた。

(注223)『若狭小浜城』（小浜城跡発掘調査団、1984年、図版104）。

(注224) 図録『川越城－失われた遺構を探る－』（川越市立博物館、1992年、19、87頁）。城内の建築物は立体的な描写がなく、櫓はそれぞれの位置に□として記されている。修補箇所は朱色で明示されているものの、朱線は記されていない。この図録の存在及びその内容については高田徹氏より御教示をいただいた。

(注225) 前掲「教啓録」（『豊前叢書』２巻、105～106頁）。

(注226) 前掲『島原市本光寺所蔵古文書調査報告書』（200頁）。

(注227) 前掲『鳥取県立博物館所蔵　鳥取城絵図集』（10頁）。本来朱引である部分は、単に墨による直線で引かれている。このようにした理由は本図が下図であることに起因すると思われる。

(注228) 前掲『鳥取県立博物館所蔵　鳥取城絵図集』（11頁）。

(注229)『臼杵市史』上巻（臼杵市、1990年、口絵）。図録『古文書に見る臼杵藩稲葉氏五百年』（大分県立先哲史料館、1998年、15、51頁）。前掲『県指定史跡臼杵城跡保存整備計画策定書』（61頁）。前掲『復元大系日本の城』８巻（106頁）。

(注230) 前掲・図録『赤穂城絵図展』（15頁）。この絵図は、修補願絵図としては珍しい部分図である。

(注231) 巴江神社所蔵（前掲・増山禎之「田原城の絵図について（その１）」、208頁）。『愛知県中世城館跡調査報告Ⅲ（東三河地区）』（愛知県教育委員会、1997年、391頁）。この絵図には実際に花押があるものの、その右上には「印判」と記載されている。この点を考慮すると、幕府へ提出した絵図には、花押のほかに実際に印判が押されていたと考えられる。よって、この絵図は藩側の控絵図であると考えられ、その意味では、実際に花押がある修補願絵図すべてが幕府へ提出されたものであるとは限らないことの徴証となろう。

(注232) 前掲・前島卓他２名「松代城の調査概要」（92、93頁）。

(注233) 前掲『鳥取藩政資料目録』（431頁）。

(注234) 慶応大学図書館所蔵。この絵図の存在については、鶴嶋俊彦氏より御教示をいただいた。

(注235) 前掲『島原市本光寺所蔵古文書調査報告書』（200頁）。

(注236) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。

(注237) 慶応大学図書館所蔵。この絵図の存在については、鶴嶋俊彦氏より御教示をいただいた。

(注238) 高鍋町歴史総合資料館に展示されている石井家寄託の絵図。

(注239) 前掲『復元大系日本の城』１巻（51頁）。

(注240) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。

(注241) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。

(注242)『毛利家資料調査報告書　工芸品・絵画・古文書』（佐伯市教育委員会、2003年、167頁）。この報告書の存在及び内容については、甲斐素純氏より御教示をいただいた。

(注243) 前掲『島原市本光寺所蔵古文書調査報告書』（200頁）。

(注244) 前掲・図録『豊後府内城』（28頁）。

(注245) 前掲・図録『豊後府内城』（29頁）。

(注246) 本田耕一「豊後国岡城石垣損所之覚（絵図）」（『ぐんしょ』35号、続群書類従完成会、1997年、22～24頁）。

(注247) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。

(注248) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（662頁）。

(注249) 慶応大学図書館所蔵。この絵図の存在については、鶴嶋俊彦氏より御教示をいただいた。

(注250) 尼崎市教育委員会・歴史博物館準備室所蔵。この絵図の存在については、同準備室の室谷公一氏より御教示をいただいた。

(注251)『週刊名城をゆく15　松江城』（小学館、2004年、12頁）。前掲『石垣調査報告書－史跡松江城－』（58、65頁）。

(注252)『日本城郭大系』12巻（新人物往来社、1981年、口絵71）。

(注253)『図録　庄内の歴史と文化』〈鶴岡市史資料編　荘内史料集22〉（鶴岡市、1996年、71頁）。

(注254) 前掲『若狭小浜城』（図版104）。前掲『復元大系日本の城』３巻（147頁）。

(注255) 前掲『米子城資料』１集（７頁）。藩主の花押部分は切り取られている。

(注256) 図録『奥平信昌と加納城』（岐阜市歴史博物館編著、岐阜新聞社発行、2004年、55、101頁）。

(注257)「久野宗家文書」（袋井市立図書館架蔵マイクロフィルム複製本）。

(注258) 前掲・図録『徳島城下絵図』（27頁）。建築物の記載（描写）については、門以外は一切描かれていない（同図録53頁の本田昇氏による解説）。

(注259) 前掲『復元大系日本の城』７巻（110頁）。この絵図の記載内容は、前掲・図録『徳島城下絵図』（27頁）の徳島城修補願絵図とほぼ同内容であるが、花押の有無に両者の違いが見られる。

(注260) 前掲・図録『三春城と城下町』(34頁)。
(注261) 笠間稲荷神社所蔵。
(注262) 前掲・福山宗志「涌谷要害石垣修復工事の調査から」（８頁)。この修補願絵図の表題の城名（要害名）記載は「遠田郡涌谷私要害屋敷」となっている。
(注263) 前掲『姫路城世界遺産登録10周年記念事業記念展覧会「江戸の修理、昭和の整備」』パンフレット（２頁)。
(注264) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』(662頁)。
(注265) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』(662頁)。
(注266) 慶応大学図書館所蔵。この絵図の存在については、鶴嶋俊彦氏より御教示をいただいた。
(注267)『太陽コレクション　城下町古地図散歩２』(平凡社、1995年、90頁)。『西尾市史史料Ⅱ　西尾城　城郭城下町』(西尾市、1971年、27～28頁、119頁。付図11)。前掲・図録『大給松平氏と城郭絵図』(14頁)。前掲・図録『大給松平氏と城郭絵図』(14頁）に収載された修補願絵図の写真には、城名及び一つ書きや年月などの記載はないが、これらの点は、寛政四年八月の「参河国西尾城堀浚之覚図」付記（前掲『西尾市史史料Ⅱ　西尾城　城郭城下町』、27～28頁）により補った。『西尾城　西尾藩』(西尾市資料館企画、ブラザー印刷株式会社、1994年、図３)。
(注268) 大類伸・鳥羽正雄『日本城郭史』(雄山閣出版、1977年復刻、667頁)。
(注269) 前掲『鳥取藩政資料目録』(431頁)。藩主の花押部分は切り取られている。
(注270) 前掲・図録『戦国の城』(43頁)。
(注271)『津山城　資料編』(津山市教育委員会、2000年、31頁)。『津山城　資料編　解説』(津山市教育委員会、2002年、35頁)。この絵図には方位記載がないが、絵図上方の方位は北にあたるので、絵図上方の方位については（北）とした。
(注272) 巴江神社所蔵（前掲・増山禎之「田原城の絵図について（その１)」、208頁)。
(注273)「常陸土浦土屋家文書」(国立史料館所蔵〔茨城県立歴史館架蔵マイクロフィルム複製本〕)。この修補願絵図には年月日の記載はないが、絵図と同時に幕府へ提出された伺書により上記のように年月日を比定した。この修補願絵図の申請内容は、土塀等修復（修復作事）に関するものであり、幕府からの許可は付札によっておこなわれた。
(注274) 慶応大学図書館所蔵。この絵図の存在については、鶴嶋俊彦氏より御教示をいただいた。
(注275) 前掲『復元大系日本の城』１巻（51頁)。
(注276) 前掲・図録『大給松平氏と城郭絵図』(16頁)。
(注277) 慶応大学図書館所蔵。この絵図の存在については、鶴嶋俊彦氏より御教示をいただいた。
(注278) 前掲『日本城郭大系』２巻（口絵57)。
(注279) 前掲『鳥取県立博物館所蔵　鳥取城絵図集』(12頁)。藩主の印判・書判部分は切り取られている。
(注280) 図録『第７回企画展　壬生城』(壬生町立歴史民俗資料館編集、壬生町教育委員会発行、1993年、16頁)。笹崎明「壬生城追手門－その歴史・構造と模型化への試み－」(『城郭史研究』19号、日本城郭史学会、1999年、37、38頁)。
(注281) 石川県立図書館所蔵。この絵図の存在については、木越隆三氏より御教示をいただいた。この絵図については、前掲・木越隆三「金沢城全域絵図の分類と編年－金沢城絵図調査報告Ⅰ－」において詳細な分析がなされており、絵図の写真も収載されている。なお、この絵図に関しては、前掲「金沢城全域絵図目録」(44頁の〔整理番号231〕)も参照されたい。
(注282) 前掲『津山城　資料編』(30頁)。前掲『津山城　資料編　解説』(33頁)。
(注283) 前掲『島原市本光寺所蔵古文書調査報告書』(194頁)。
(注284) 前掲・図録『絵図が語る大野』（４頁)。
(注285) 前掲『山口県文書館史料目録』３〈毛利家文庫目録　第３分冊〉(86頁)。
(注286) 図録『松平周防守家の成立と浜田』(浜田市教育委員会編集、浜田市世界こども美術館発行、1999年、25頁)。
(注287) 岡山大学附属図書館池田家文庫所蔵（http://www.lib.okayama-u.ac.jp/www/ikeda/ezu/3069-20.JPG)。櫓などについては立体的に描写せず、□などで表示し、その枠内を白色で着色している。
(注288) 前掲『小倉城跡３(北九州市埋蔵文化財調査報告書197集)』(14頁)。
(注289) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』(662頁)。
(注290) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』(663頁)。
(注291) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』(663頁)。
(注292)『新修彦根市史』６巻、史料編近世１（彦根市、2002年、965頁)。
(注293) 前掲・図録『豊後府内城』(31頁)。
(注294) 前掲・図録『豊後府内城』(31頁)。
(注295)『太陽コレクション　城下町古地図散歩５』(平凡社、1997年、83頁)。
(注296) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』(663頁)。
(注297) 前掲『復元大系日本の城』４巻（102頁)。

(注298) 前掲・図録『絵図にみる城と城下町』（４、34頁）。
(注299) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（663頁）。『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（663頁）では、「文政７・８年４月」として記載されているが、絵図を実見していないので、本表の作表にあたっては、「文政８年４月」として記入した。
(注300) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（663頁）。
(注301) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（663頁）。
(注302) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（663頁）。
(注303) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（663頁）。
(注304) 『豊津町史史料編　豊津藩　歴史と風土』９輯（豊津町、2000年、口絵）。前掲『小倉城跡３（北九州市埋蔵文化財調査報告書197集）』（15頁）。
(注305) 『大野市史』藩政史料編１（大野市役所、1983年、表紙の見返し）。絵図の文言（奥書）は、『大野市史』藩政史料編２（1984年、274～275頁）を参照。
(注306) 図録『近世大名阿部家の遺宝』（白河市歴史民俗資料館、1996年、88頁）。
(注307) 『三原市史』６巻、資料編３（三原市役所、1986年、口絵）。
(注308) 前掲・図録『富山城の歴史』（36頁）。
(注309) 前掲・図録『近世大名阿部家の遺宝』（89頁）。
(注310) 図録『彦根城の修築とその歴史』（彦根城博物館編集、彦根市教育委員会発行、1995年、11頁）。前掲『新修彦根市史』６巻、史料編近世１（口絵）。
(注311) 前掲『西尾市史史料Ⅱ　西尾城　城郭城下町』（123～124頁。付図12）。
(注312) 前掲『山口県文書館史料目録』３〈毛利家文庫目録　第３分冊〉（87頁）。
(注313) 岡山大学附属図書館池田家文庫所蔵（http://www.lib.okayama-u.ac.jp/www/ikeda/ezu/3069-14.JPG）。櫓などについては立体的に描写せず、□などで表示し、その枠内を白色で着色している。
(注314) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（663頁）。
(注315) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（663頁）。
(注316) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（663頁）。
(注317) 前掲・図録『近世大名阿部家の遺宝』（89頁）。
(注318) 前掲・木島孝之『城郭の縄張り構造と大名権力』（図版篇〔田中領・図３－１〕）。前掲『復元大系日本の城』８巻（58頁）。
(注319) 前掲『石垣調査報告書－史跡松江城－』（58、66頁）。この絵図は昭和27年に模写されたもので、原本は不明である。
(注320) 前掲『太陽コレクション　城下町古地図散歩２』（89頁）。前掲・図録『大給松平氏と城郭絵図』（13頁）。前掲『西尾城　西尾藩』（図２）。
(注321) 『中津藩史料叢書　中津藩　歴史と風土』12輯（中津市立小幡記念図書館発行、1992年、口絵）。
(注322) 前掲・図録『近世大名阿部家の遺宝』（90頁）。
(注323) 図録『描かれた世喜宿城』（千葉県立関宿城博物館編集、財団法人千葉県社会教育施設管理財団発行、1997年、16、28頁）。この絵図では、城下町域については実際の距離感より圧縮されて描かれている。その意味でのデフォルメには注意する必要がある。この図録の存在及びその内容については、高田徹氏より御教示をいただいた。
(注324) 前掲『鳥取県立博物館所蔵　鳥取城絵図集』（13頁）。藩主の印判・書判部分が切り取られている。
(注325) 前掲『鳥取藩政資料目録』（431頁）。
(注326) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（663頁）。
(注327) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（663頁）。
(注328) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（663頁）。
(注329) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』（663頁）。
(注330) 前掲・図録『近世大名阿部家の遺宝』（90頁）。
(注331) 前掲・図録『大給松平氏と城郭絵図』（17頁）。方位記載は西と南のみである。
(注332) 前掲・図録『特別展　松代城』（19頁）。前掲・前島卓他２名「松代城の調査概要」（92、93、97頁）。ただし、これらの出典では、この絵図の年次を弘化４年としているが、『特別展　松代城』図録（19頁）収載の絵図写真によれば、「弘化五戊申年正月」と記されているので、そのように修正した。また、前掲・前島卓他２名「松代城の調査概要」（98頁）では、この絵図には「石垣の被害は一切記されておらず、修復されなかったことは確実である」としているが、修復作事の申請箇所のみを記したこの絵図とは別に、修復普請の申請箇所のみを記した松代城修補願絵図が作成された可能性も考えられる。なお、この修補願絵図中における申請文言が「奉伺候」である点を考慮すると、この許可は老中奉書ではなく、「付札」によって幕府から許可されたと思われる（こうした類例については、拙稿「城郭修補申請方式の変遷について」、『城郭研究室年報』９号、姫路市立城郭研究室、1999年、７頁を参照されたい）。

(注333) 前掲『米子城資料』１集（20頁）。
(注334) 前掲『山口県文書館史料目録』３〈毛利家文庫目録　第３分冊〉（87頁）。
(注335) 前掲『館林城調査報告書』１集（72頁）。
(注336) 前掲・図録『近世大名阿部家の遺宝』（91頁）。
(注337) 前掲『鳥取県立博物館所蔵　鳥取城絵図集』（14頁）。藩主の印判・書判部分は切り取られている。
(注338)『島根縣史』９巻（島根県、1930年、716頁）。
(注339) 前掲『姫路城世界遺産登録10周年記念事業記念展覧会「江戸の修理、昭和の整備」』パンフレット（３頁）。
(注340)『定本　三重県の城』（郷土出版社、1991年、207頁）。
(注341)『沼津市史』史料編近世１（沼津市、1993年、口絵）。普請箇所については、「絵図面掛紙之通、普請仕度奉願候」と記している。
(注342) 前掲『鳥取県立博物館所蔵　鳥取城絵図集』（15頁）。修補箇所については付紙で示しているが、これは本図が下図であることに起因すると思われる。
(注343) 前掲『鳥取藩政資料目録』（431頁）。
(注344) 明治大学刑事博物館所蔵。絵図の大きさは、前掲・図録『築城400年記念『甦る延岡城』』（103頁）による。牧野氏が延岡城主であった時代の延岡城修補願絵図（正徳３年６月付、延享３年８月21日付、享保元年11月付）と内藤氏が延岡城主であった時代の延岡城修補願絵図（嘉永５年10月付、安政２年11月付）を比較すると、それぞれベースにした元絵図が異なる系統の絵図であったことがわかる。また、内藤氏時代には大手の位置を付け替えていることや、本丸を本城に名称変更していることもわかる。
(注345) 前掲『小田原市史』別編　城郭（519～520頁）。
(注346) 前掲・図録『富山城の歴史』（29頁）。前掲『復元大系日本の城』３巻（70頁）。
(注347) 前掲『史跡　人吉城跡Ⅵ』（26頁）。
(注348) 前掲・図録『特別展　城郭物語』（66頁）。
(注349) 前掲『復元大系日本の城』４巻（74頁）。『歴史群像シリーズ・よみがえる日本の城11　駿府城』（学習研究社、2005年、とじ込み特別付録）。年月の下の大名の名前が記載された部分は墨で塗りつぶされている。
(注350) 前掲『毛利家資料調査報告書　工芸品・絵画・古文書』（168頁）。
(注351) 前掲『鳥取藩政資料目録』（431頁）。
(注352) 明治大学刑事博物館所蔵。絵図の大きさは、前掲・図録『築城400年記念『甦る延岡城』』（103頁）による。
(注353) 巴江神社所蔵（前掲・増山禎之「田原城の絵図について（その１）」、208頁）。
(注354) 前掲・西ケ谷恭弘『城郭』（138頁）。
(注355) 前掲・図録『特別展　城郭物語』（130頁）。
(注356) 前掲『小倉城跡３（北九州市埋蔵文化財調査報告書197集）』（15頁）。同報告書では、この修補願絵図には天保８年に焼失した小倉城天守がまだ描かれている点を指摘している。
(注357)『三重の古文化』82号（三重郷土会、1999年、73頁〔1999年５月３日付伊勢新聞の記事紹介の部分〕）。同記事によると、この絵図について「嘉永７年（1854）年６月15日に伊賀地方を襲った安政大地震による城内の石垣やがけ崩れなど被害状況を克明に一枚図面に記載。58カ所の破損部を赤色に塗りつぶし、堀を水色、林地を緑で鮮やかに描いてあり、保存状態は極めて良好」としている。
(注358) 前掲『鳥取藩政資料目録』（431頁）。
(注359) 前掲『鳥取藩政資料目録』（431頁）。
(注360) 金沢市立玉川図書館後藤文庫所蔵。この絵図の存在については、木越隆三氏より御教示をいただいた。この絵図については、前掲・木越隆三「金沢城全域絵図の分類と編年－金沢城絵図調査報告Ⅰ－」において詳細な分析がなされており、絵図の写真も収載されている。なお、この絵図に関しては、前掲「金沢城全域絵図目録」（44頁の〔整理番号23〕）も参照されたい。この絵図は『金沢城郭史料』（石川県立図書館協会、1976年、付図）と同一のものである。この絵図において、「御名」（藩主名のことを指すと考えられる）の下には「御印」と「御判」という記載がある。
(注361) 前掲・笹崎明「壬生城追手門－その歴史・構造と模型化への試み－」（37、43頁）。笹崎明「江戸時代城郭修補の一事例－下野国壬生城にみる－」（『城郭史研究』24号、日本城郭史学会、2004年、58頁）。
(注362) 山口県文書館所蔵。建築物については、「櫓」という文字を□の枠で囲って表記している。
(注363) 高橋洋充「吉田城絵図」（『豊橋市美術博物館研究紀要』４号、1995年、59頁）。『吉田城いまむかし』（豊橋市教育委員会、1994年、60頁）。『古地図展』パンフレット（豊橋市美術博物館・豊橋市二川宿本陣資料館・豊橋市中央図書館、1993年、４頁）。『古地図展』パンフレットの存在及びその内容については、石川浩治氏より御教示をいただいた。
(注364) 前掲『吉田城いまむかし』（80頁）。
(注365) 前掲『山口県文書館史料目録』３〈毛利家文庫目録　第３分冊〉（87頁）。

(注366) 前掲・図録『豊後府内城』(32頁)。
(注367) 西ケ谷恭弘『城郭』(近藤出版社、1988年、139頁)。
(注368) 前掲『山口県文書館史料目録』３〈毛利家文庫目録　第３分冊〉(87頁)。
(注369) 前掲『沼津市史』史料編近世１（口絵)。図録『東海道の城下町展Ⅰ』(豊橋市二川宿本陣資料館、2004年、23頁)。この図録の存在及びその内容については、石川浩治氏より御教示をいただいた。
(注370) 前掲『鳥取県立博物館所蔵　鳥取城絵図集』(16頁)。藩主の印判・書判部分は切り取られている。普請箇所については「掛紙」で示している。なお、絵図奥書の文言では「掛紙之通石垣并塀覆共張出し取附申度奉存候」としているので、幕府へ提出された清絵図においても絵図中の普請箇所については、「掛紙」で示したものと考えられる。
(注371) 前掲『鳥取県立博物館所蔵　鳥取城絵図集』(17頁)。藩主の印判・書判部分は切り取られている。普請箇所については「掛紙」で示している。なお、絵図奥書の文言では「掛紙之通石垣并塀覆共張出し取附申度奉存候」としているので、幕府へ提出された清絵図においても絵図中の普請箇所については、「掛紙」で示したものと考えられる。
(注372) 前掲・図録『大給松平氏と城郭絵図』(18頁)。建築物については、申請箇所に関係する門（及び、外曲輪の門）は立体的に描かれているが、その他の門や櫓は白色の四角形で表記されている。
(注373) 山口県文書館所蔵。
(注374) 山口県文書館所蔵。
(注375) 前掲『米子城資料』１集（21頁)。
(注376) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』(663頁)。
(注377) 前掲『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』(663頁)。
(注378) 前掲・図録『大給松平氏と城郭絵図』(19頁)。
(注379) 前掲『鳥取藩政資料目録』(432頁)。
(注380) 前掲『鳥取藩政資料目録』(432頁)。
(注381) 前掲『太陽コレクション　城下町古地図散歩２』(60頁)。
(注382) 前掲『若狭小浜城』(図版105)。
(注383)『郡上八幡町史』上巻（八幡町役場、1960年、口絵Ｌ)。
(注384)『日本の名城　城絵図を読む』(新人物往来社、1998年、140頁)。前掲『復元大系日本の城』１巻（156頁)。『歴史群像シリーズ・よみがえる日本の城９　盛岡城』(学習研究社、2004年、14頁)。
(注385) 内閣文庫所蔵。前掲『石垣調査報告書－史跡松江城－』(58、67頁)。この絵図の存在については、加藤隆氏より御教示をいただいた。修補願絵図における申請箇所には朱引はないが、修補願絵図の奥書には、「朱書之通新規取建申度」と記されている。よって、朱引ではなく朱書により申請箇所を明示したことがわかる。
(注386) 内閣文庫所蔵。この絵図の存在については、加藤隆氏より御教示をいただいた。前掲『西尾市史史料Ⅱ　西尾城城郭城下町』(125頁。付図13)。
(注387) 内閣文庫所蔵。この絵図の存在については、加藤隆氏より御教示をいただいた。
(注388) 前掲『復元大系日本の城』５巻（147頁)。
(注389) 内閣文庫所蔵。この絵図の存在については、加藤隆氏より御教示をいただいた。
(注390) 前掲・図録『園部藩と城』(口絵、18～19頁)。この絵図は、慶応元年（1865）７月に京都所司代へ提出された修築願絵図の控えである。
(注391)『改訂　内閣文庫国書分類目録』下（国立公文書館内閣文庫、1975年、712頁)。
(注392) 前掲『改訂　内閣文庫国書分類目録』下（712頁)。
(注393) 内閣文庫所蔵。この絵図の存在については、加藤隆氏より御教示をいただいた。
(注394) 内閣文庫所蔵。この絵図の存在については、加藤隆氏より御教示をいただいた。
(注395) 内閣文庫所蔵。この絵図の存在については、加藤隆氏より御教示をいただいた。
(注396) 前掲『島原市本光寺所蔵古文書調査報告書』(192頁)。
(注397)『中津藩史料叢書　中津藩　歴史と風土』４輯（中津市立小幡記念図書館発行、1983年、口絵)。この絵図は城域も含む中津の城下町絵図であり、寛文３年６月20（日）付の覚書（欠損部分があり、修補に関する願文かどうか不明）の押紙と、寛文７年６月11日付の石垣破損箇所の一つ書きと修補願文が書かれた押紙が絵図に貼られている。しかし、この２つの押紙の記載内容とこの絵図の描写内容とを比較すると、両者には関連がないことがわかるので、厳密な意味では、この絵図は修補願絵図ではない。
(注398) 前掲『姫路城世界遺産登録10周年記念事業記念展覧会「江戸の修理、昭和の整備」』パンフレット（３頁)。パンフレットの解説によれば、この絵図は損傷がひどく、２枚の図を１枚にしたものであり、もとの２枚は同じ絵図だったことが、修理箇所の箇条書からわかる、としている。この絵図には年月日や藩主名（城主名）の記載はない。
(注399)『佐伯市史』(佐伯市、1974年、204頁)。この絵図では、山上の曲輪群（本丸、二の丸など）と山麓の三の丸を描くが、両者の距離は実際よりもかなり圧縮されて描かれている。その意味でのデフォルメには注意する必要がある。

（注400）前掲『復元大系日本の城』４巻（131頁）。
（注401）前掲・薩日内良則「仙台藩要害の成立について」（133頁）。
（注402）前掲『島原市本光寺所蔵古文書調査報告書』（195頁）。